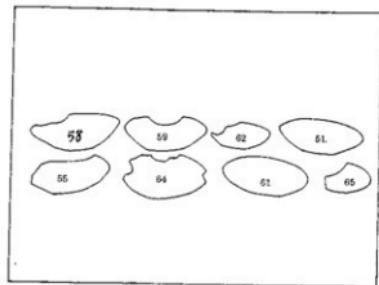


— 津和野消防センター建設工事に伴う発掘調査報告書 —

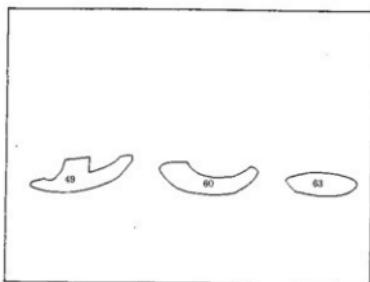
# 津和野城下町遺跡3 森村地区Ⅱ

2010年3月

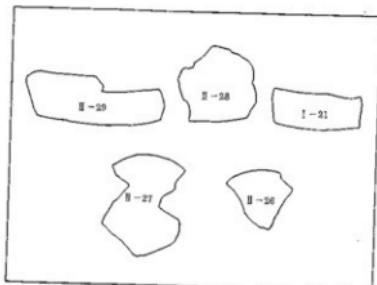
島根県津和野町教育委員会



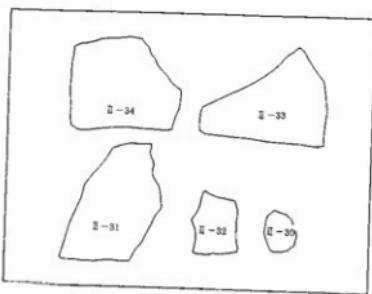
図版 22 1. I・II区出土 土師質土器



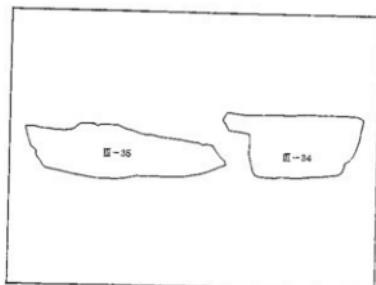
図版 22 2. III区出土 土師質土器



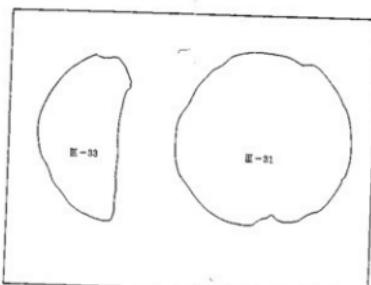
図版 23 1. I・II区出土 瓦



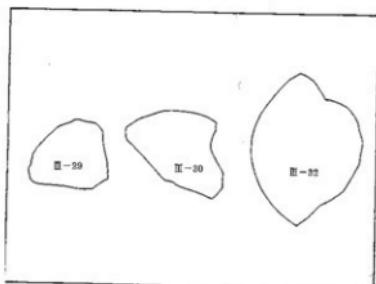
図版 23 2. II区出土 瓦



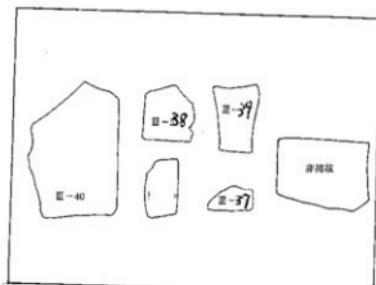
図版 24 1. III区出土 瓦①



図版 24 2. III区出土 瓦②



図版 25 1. III区出土 瓦③



図版 25 2. III区出土 瓦④

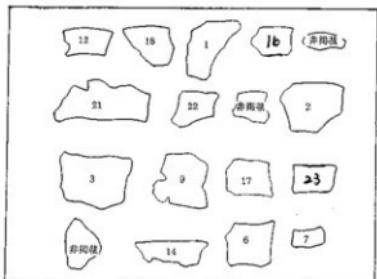
第11表 その他の時代の出土遺物観察表

遺物番号	調査区	種別	器種	法量(cm)			備考
				口径	底径	器高	
1	II 区	土器	壺	13.8	—	—	胎土荒い 焼成良
2	III 区	弥生土器	—	—	—	—	胎土3mm程度の石英、長石の粒子多く含む 焼成良好 口縁部には2条の線が入る
3	III 区	弥生土器	壺?	—	—	—	胎土3mm程度の石英多く含む
4	II 区	土器	壺	14.4	—	—	胎土1.5mmの石を含む 焼成良好 外面口縁部ハケ自のちナデ 口縁近くの体部ハケ目 体部ナデ 内面ナデ
5	III 区	土器	不明	34.2	—	—	胎土2mmの石を微量に含む 焼成良好 全体にナデ 口縁の一部ケズリのちナデ
6	I 区	土器	不明	9.2	—	—	胎土3mmの石含む 焼成良好
7	I 区	土器	不明	—	—	—	胎土密 焼成良好 外面刷毛目?
8	I 区	土器	壺?	—	—	—	胎土密 焼成良好
9	II 区	弥生土器	壺?	—	—	—	胎土石英、長石の微量含む 焼成良好
10	II 区	土器	不明	—	—	—	胎土2mmの石含む 焼成良好 内外面ナデ
11	II 区	土器	壺	—	—	—	胎土密 焼成良好 外面ナデ一部スス付着 内部口縁部 ナデ 体部ケズリ
12	I 区	土器	壺	15	—	—	胎土密 焼成良好 口縁の一部にスス?付着
13	II 区	土師器	高杯	—	—	—	胎土最大4mm程度の石英、長石含む 焼成良好
14	I 区	土器	壺?	11	—	—	胎土2mmの石を微量に含む 焼成良好
15	II 区	土器	壺	10.2	—	—	胎土3mmの石含む 焼成良好 外面ナデ 内面スス付着反時計回りナデ
16	II 区	土器	壺?	18.2	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好
17	II 区	土器	壺?	—	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好
18	II 区	土器	壺?	—	—	—	胎土密 烧成良 外面に装飾あり
19	I 区	土器	壺	28.6	—	—	胎土4mmの石を含む 烧成良好 外面○痕
20	I 区	土器	壺	15.2	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好 外面ナデスス付着 口縁内ナデ 体部内ケズリ
21	II 区	土器	壺	17.2	—	—	胎土密 烧成良
22	II 区	土師器	壺?	—	—	—	胎土やや荒い 烧成良好
23	II 区	土器	不明	—	—	—	胎土やや密 烧成良好
24	II 区	土器	碗	9.2	—	—	胎土密 烧成良
25	II 区	土器	ミニチュア	3.3	1	2.8	胎土密 烧成良好
26	II 区	土器	ミニチュア	2.8	1	2	胎土石英、長石含む 烧成良好
27	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁
28	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁
29	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁
30	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁 内側に線刻あり
31	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁
32	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁
33	I 区	磁器	皿?	—	—	—	白磁
34	II 区	磁器	碗	15	—	—	白磁
35	III 区	磁器	碗	—	5.2	—	白磁
36	I 区	磁器	碗	16.6	—	—	白磁
37	III 区	磁器	碗	16.2	—	—	白磁
38	II 区	磁器	皿	7.8	—	—	青磁
39	II 区	磁器	皿	9.6	—	—	青磁 外面にわずかに蓮弁のような凹凸あり
40	III 区	磁器	皿	10	—	—	青磁
41	II 区	磁器	皿?	—	—	15.2	— 線刻あり
42	II 区	磁器	皿?	—	—	—	青磁 蓮弁?
43	III 区	磁器	皿?	—	—	—	青磁
44	II 区	磁器	碗	—	—	—	白磁
45	III 区	磁器	碗	—	5.8	—	青磁?
46	II 区	土師器	皿?	15	6.4	4.9	胎土密 烧成良好 底部系切痕
47	II 区	土師器	皿	14	7.6	3.4	胎土密 烧成良好 底部系切痕 内部に変色
48	II 区	土師器	皿?	14	6.4	3.8	胎土長石の微粒含む、 烧成良好 底部系切痕
49	III 区	土師器	皿	13.8	7.2	3.3	胎土密 烧成良好 内外面ロクロナデ 底部系切痕
50	II 区	土師器	皿	10	6.4	2.15	胎土密 烧成良好 底部系切痕 内・外面部共半分にスス付着
51	I 区	土師器	皿	9.5	5.6	2.1	胎土密 烧成良好 灯明痕 全面にスス付着 底部系切痕
52	II 区	土師器	皿	9.6	5.8	2.3	胎土密 烧成良好 底部系切痕
53	II 区	土師器	皿	9	5.5	2.1	胎土密 烧成良好 底部系切痕
54	III 区	土師器	皿	9.6	5.6	2.3	胎土密 烧成良好 底部系切痕
55	II 区	土師器	皿	7.4	3	1.4	胎土密 烧成良好 底部系切痕ナデ
56	I 区	土師器	皿	8.5	4.9	1.9	胎土密 烧成良好 底部系切痕
57	II 区	土師器	皿	9.4	5.5	2	胎土長石の微粒含む 烧成良好 底部系切痕
58	II 区	土師器	皿	9.4	6	2	胎土密 烧成良好 底部系切痕
59	II 区	土師器	皿	9.6	5.7	2.15	胎土2mmの石を含む 烧成良好 底部系切痕 灯明痕多數

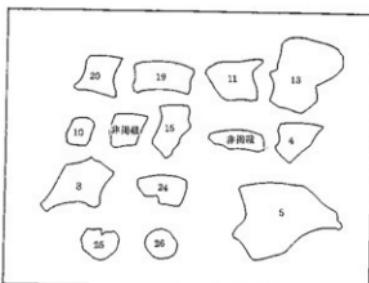
遺物番号	調査区	種別	器種	法寸(cm)			備考
				口径	底径	器高	
60	III区	土師器	皿	9	5.8	1.95	胎土密 焼成良好 内外面ナデ 底部糸切後ナ 子 灯明痕あり
61	II区	土師器	皿	7.4	4.2	1.2	胎土3mm程度の長石・石英の微粒多く含む 焼成良好
62	II区	土師器	皿	7.1	4	1.5	胎土2mmの石を微量に含む 焼成良好 底部糸切痕
63	III区	土師器	皿	6.4	4.5	1.1	胎土密 焼成良好 究形
64	II区	土師器	皿	7	4.2	1.4	胎土長石の微粒含む 焼成良好 底部糸切痕
65	II区	土師器	皿	6.4	5	1	胎土密 焼成良好 灯明痕 底部糸切痕

第5表 SK05出土遺物観察表 正誤表

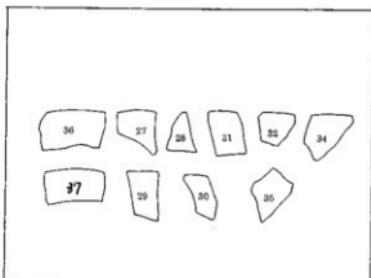
SK05-9	種 器種:中碗蓋	正
		器種:皿



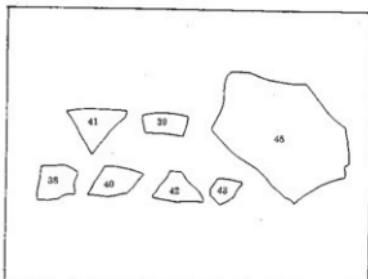
図版 20 1. その他の時代の出土遺物①



図版 20 2. その他の時代の出土遺物②



図版 21 1. その他の時代の出土遺物③ 白磁



図版 21 2. その他の時代の出土遺物④ 青磁

津和野城下町遺跡報告書 4・5 遺物観察表 正誤表

ページ	遺物番号	誤	正
20	1-41	器種:蓋	器種:碗
22	1-73	器種:皿	器種:蓋
35	2-63	器種:蓋	器種:碗
36	2-71	器種:皿	器種:蓋

— 津和野消防センター建設工事に伴う発掘調査報告書 —

# 津和野城下町遺跡3 森村地区Ⅱ

2010年3月

島根県津和野町教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、平成20年度(2008)において、益田広域消防組合の委託を受け実施した津和野消防センター新築工事予定地内「津和野城下町遺跡3」の発掘調査報告書である。

2. 調査は、島根県教育委員会文化財課の指導と協力を得て次のような体制で実施した。

調査指導	島根県教育委員会文化財課		
	奥田元宋・小由女美術館館長	村上　勇	
	津和野町文化財保護審議会会长	松島　弘	
事務局	津和野町教育委員会　教育長	齋藤　誠	
	教育次長	廣石　修	
	文化財係	米本　潔	
調査員	津和野町教育委員会文化財係長	中井将胤	
	文化財係	宮田健一	
調査補助員	永田茂美　　椋木牧子　　麻野　遼		
調査参加者	森川リユ子　　長嶺三千子　　小野寺辰夫　　青柳三由紀		
	田中光男　　田中絵美　　竹下光彦　　長安邦彦　　高田憲一		
	渡辺正美　　井東　哲　　森本定見　　森本定見　　岩本光子		
	三浦一義　　大野裕紀　　佐伯幸俊　　齋藤みか　　桑谷節子		
	長嶺花子　　佐内　洋　　佐伯昌俊		

3. 発掘調査に際しては、島根県教育委員会文化財課に終始多大な協力をいただき、ここに合わせて感謝の意を表したい。

また、発掘現場においては、地元の方々にご協力を得るなど、ここに無事発掘調査を終えることができたことに対してお礼を申し上げたい。

4. 今回の調査において、土坑—SK、柱穴—SP、溝状遺構—SD、石積遺構—SXと略号している。なお、編集に利用した現地地図は、津和野土地改良区の協力を得た1/25000の縮尺のものであり、現地における基準点測量は、株式会社ワールドの協力を得て行った。

5. 調査に伴う記録類は、津和野町教育委員会で保管している。

6. 本書は中野・永田・椋木・佐伯・麻野氏の協力のもと、中井将胤が編集にあたった。

## 目 次

第1章 発掘調査の経緯と経過 .....	1
第1節 発掘調査の経緯 .....	1
第2節 発掘調査の経過 .....	1
第2章 地区の概況 .....	3
第1節 地理的環境と地形的立地 .....	3
第2節 歴史的環境 .....	4
第3章 調査概要 .....	6
第1節 調査地点と調査区の設定 .....	6
1. 調査地点 .....	6
2. 調査区の設定 .....	8
第2節 層序と層位 .....	9
1. はじめに .....	9
2. 層序状況 .....	9
第3節 遺構と遺物 .....	10
1. はじめに .....	10
2. 検出遺構 .....	10
3. 遺物 .....	17
第4章 まとめ .....	43

## 挿 図 目 次

第 1 図 位置図 .....	1
第 2 図 地形断面図 .....	3
第 3 図 位置と周辺の遺跡分布 .....	5
第 4 図 調査地点位置図 .....	6
第 5 図 元禄期の調査区周辺絵図 .....	7
第 6 図 幕末期の調査区周辺絵図 .....	7
第 7 図 調査区配置図 .....	8
第 8 図 土層図（I 区南壁） .....	9
第 9 図 土層図（II 区南壁） .....	10
第 10 図 土層図（III 区南壁） .....	10
第 11 図 遺構配置図 .....	11
第 12 図 SX 01、02 実測図 .....	13
第 13 図 SK 03 土層図 .....	15
第 14 図 SK 04、08 土層図 .....	16
第 15 図 SK 05 土層図 .....	16
第 16 図 SK 02 出土遺物実測図① .....	18
第 17 図 SK 02 出土遺物実測図② .....	19
第 18 図 SK 03 出土遺物実測図① .....	20
第 19 図 SK 03 出土遺物実測図② .....	21
第 20 図 SK 04 出土遺物実測図 .....	22
第 21 図 SK 05 出土遺物実測図① .....	23
第 22 図 SK 05 出土遺物実測図② .....	24
第 23 図 SK 07 出土遺物実測図① .....	25
第 24 図 SK 07 出土遺物実測図② .....	26
第 25 図 SK 07 出土遺物実測図③ .....	27
第 26 図 SK 08 出土遺物実測図 .....	27
第 27 図 I 区出土遺物実測図 .....	28
第 28 図 II 区出土遺物実測図① .....	29
第 29 図 II 区出土遺物実測図② .....	30
第 30 図 III 区出土遺物実測図① .....	31
第 31 図 III 区出土遺物実測図② .....	32
第 32 図 III 区出土遺物実測図③ .....	33
第 33 図 その他の時代の遺物実測図① .....	34
第 34 図 その他の時代の遺物実測図② .....	35

## 表 目 次

第 1 表	検出遺構 (SP・SK) 計測表	17
第 2 表	SK02 出土遺物観察表	36
第 3 表	SK03 出土遺物観察表	36
第 4 表	SK04 出土遺物観察表	37
第 5 表	SK05 出土遺物観察表	37
第 6 表	SK07 出土遺物観察表	38
第 7 表	SK08 出土遺物観察表	38
第 8 表	I 区出土遺物観察表	39
第 9 表	II 区出土遺物観察表	40
第 10 表	III 区出土遺物観察表	41
第 11 表	その他の時代の出土遺物観察表	42

## 図版目次

図版1	1. 調査地点鳥瞰	44
図版2	1. 調査区近景(調査前)	45
図版3	1. 調査区I南壁(西半部)	46
図版4	1. 調査区II南壁(西半部)	47
図版5	1. 調査区III南壁(西半部)	48
図版6	1. SPO1検出状況	49
図版7	1. SPO2検出状況	50
図版8	1. SXO1検出状況(北から)	51
図版9	1. SXO2検出状況(石垣上から)	52
図版10	1. SDO1検出状況(東から)	53
図版11	1. SKO1検出状況	54
図版12	1. SKO3半掘状況	55
図版13	1. SKO4, 08検出状況	56
図版14	1. SKO5検出状況	57
図版15	1. SKO6検出状況(南から)	58
図版16	1. SKO7半掘状況	59
図版17	1. 遺物出土状況(SKO3)	60
図版18	1. 発掘風景	61
図版19	1. 完掘状況(北側)	62
	3. 完掘状況(南側)	
図版20	1. その他の時代の出土遺物①	63
図版21	2. その他の時代の出土遺物③白磁	64
図版22	1. II区出土 土師質土器	65
図版23	1. II区出土 瓦①	66
図版24	1. III区出土 瓦①	67
図版25	1. III区出土 瓦③	68
	2. III区出土 土師質土器	
	2. III区出土 瓦②	
	2. III区出土 瓦④	

# 第1章 発掘調査の経緯と経過

## 第1節 発掘調査の経緯

平成20年4月10日、津和野町消防担当より津和野消防センター建設工事地内の埋蔵文化財の有無、及び取扱いについての協議が津和野町教育委員会になされた。

これに対し、津和野町教育会は今回の建設予定地は津和野城下町遺跡の武家屋敷の一部であることから、建設場所の変更を協議したが、既に変更計画は難しい状況にあり、消防センターといった特殊な施設のため、その設置場所にあまり選択の余地がないことから工事はやむを得ないものと判断した。

平成20年4月18日、津和野町教育委員会は、島根県文化財課の指導により、工事予定地内を工事着手前に発掘調査を行う必要がある旨を回答した。同年6月17日付で島根県教育委員会へ埋蔵文化財発掘調査通知を提出し、そして6月27日に依頼を受け、7月1日より現地調査を実施した。



第1図 位置図

## 第2節 発掘調査の経過

発掘調査を開始するにあたり、調査対象範囲を決めるため、設計管理者と工事担当者が現地において工事範囲を設定しその範囲全体を調査区とした。そして最初に、ボーリング調査等で確認していた盛土部分について重機による掘削を実施し、その後発掘調査を開始した。発掘調査全般については、島根県文化財課の指導を受けて実施した。また、発掘調査中に三重大大学人文学部の山中教授も来訪された。そして、現地調査は平成20年8月31日に無事終了した。

さらに、出土遺物に関する調査段階においては、県文化財課の西尾氏、県埋文センターの阿部氏や奥田元宗・小由女美術館館長の村上氏に指導を受けた。

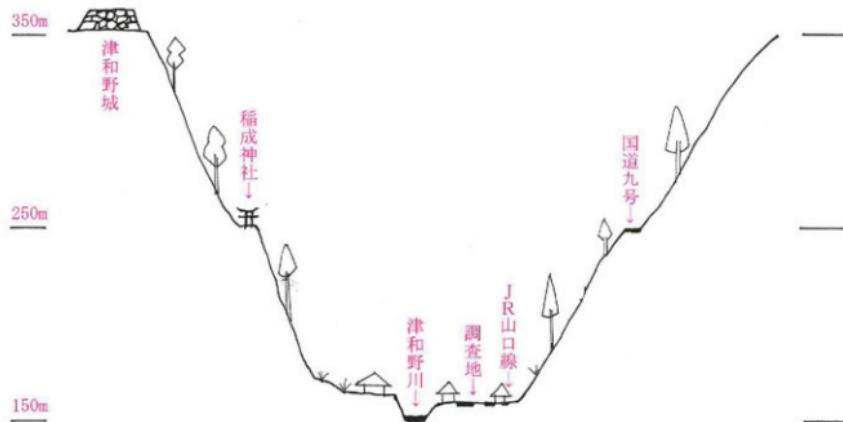


## 第2章 地区の概況

### 第1節 地理的環境と地形的立地

本遺跡が所在する津和野町は、島根県西部に位置（第1図）し、北・東側が益田市、南側が吉賀町、西側が山口県に接した位置に存在する。そして、東西 27 km、南北 19 km を測り、総面積高津 307.09 km<sup>2</sup> となる。また、総面積の約 8 割以上が山林で、高津川や津和野川の流域とその支流が入り込み、流域に市街地、集落、農地が点在し、まさに典型的な中山間地域である。

津和野城下町遺跡は、島根県津和野町後田、鷺原、森村、中座地内に所在し、本町の南東部にあたる山口県との県境に位置する。城下町遺跡は西から北東方向に流下する津和野川が遺跡のほぼ中央を流れ、平均標高約 170m を図る所に現存する（第2図）。そして城下町の形状は南北約 3 km、東西約 3～500 m を測る長方形を呈している。また、西側には津和野城（標高約 350m）があり、城下町を取り囲むように 400m 級の山々、さらに 900m 級の山々がそびえて周囲を囲む形で盆地状の地形を形成している。そのため、津和野城や現在の国道 9 号線から津和野城下町が一望できる。



第2図 地形断面図

## 第2節 歴史的環境

津和野町には、これまでに多くの遺跡等が確認され発掘調査等を実施しており、今とのところ後期旧石器時代にまで遡る。旧石器は町内で唯一ナイフ形石器が喜時雨遺跡から出土している。また、縄文時代以降の遺跡も数多く点在しており、開発等に伴いそれらの遺跡の一部は発掘調査等によって解明されつつある。

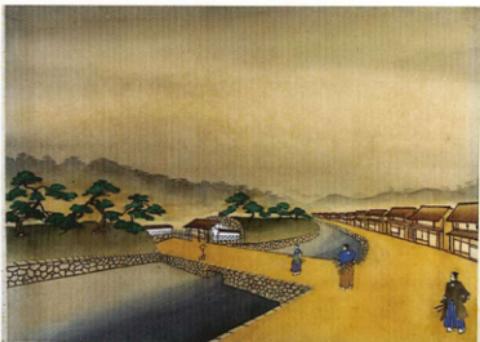
城下町遺跡周辺において多くの遺跡が点在している。西側には標高350mの山頂に津和野城（石垣）が現存している。また、城下町の南西側に位置する津和野川付近からは、古い時代として、高田遺跡が確認され縄文時代早期の土器が出土している。その東側には、大藤遺跡が確認されており縄文後期から奈良・平安時代の遺跡がある。さらに南側には、中世の山城である陶晴賢本陣跡があり、山の東側には長州藩へ続く主要街道である山陰道が良好な状態で現存している。

中世津和野の領主吉見氏は、弘安5年（1282）に元寇再防備のため能登国から津和野北部の木部地区に入り、その後14世紀に津和野城を構えたと伝えられている。中世の津和野城の大手口は近世以降の大手口とは反対側の喜時雨にあったと伝えられ、吉見氏の居館や中世城下町も存在していた可能性が高い。しかし、16世紀末には城の東側に城下町の一部を整備していたと考えられた。

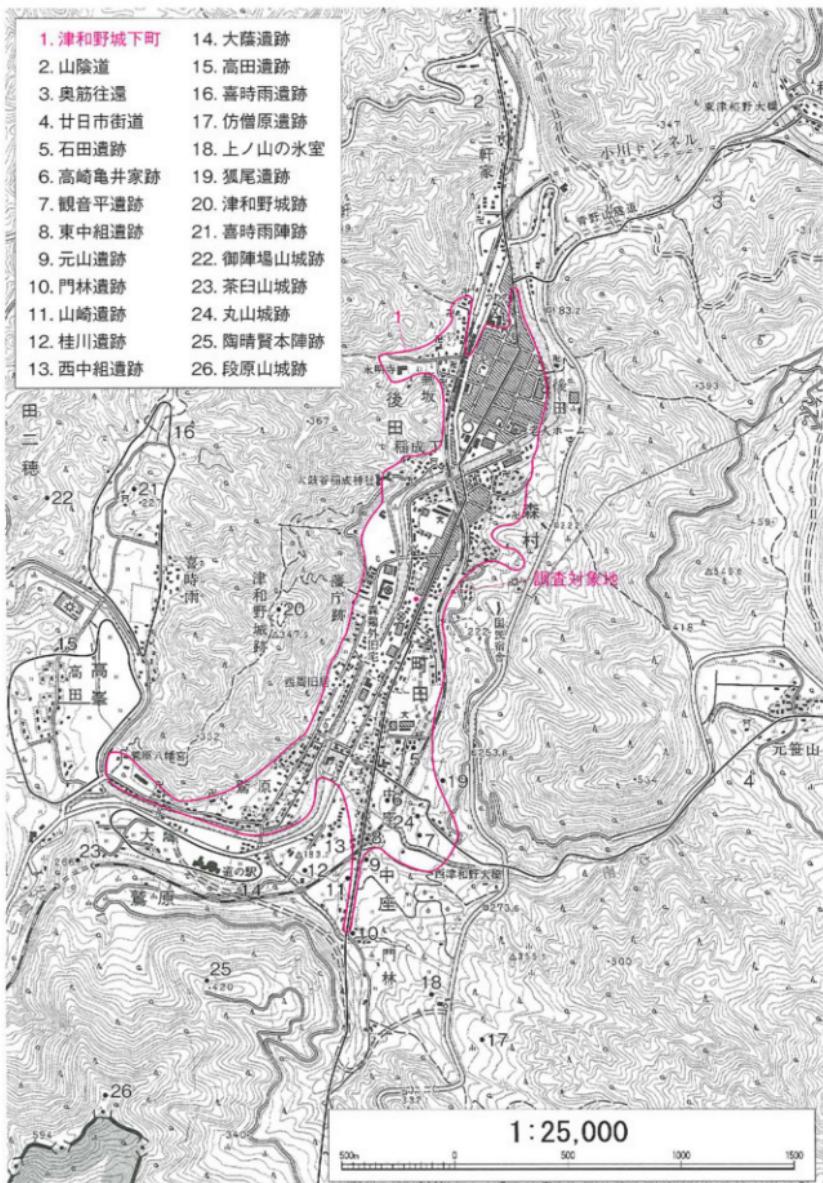
江戸時代になると、備前富山城主であった坂崎出羽守直盛が津和野3万石の城主として入城した。坂崎氏は、直ちに城の整備に取りかかり同時に城下町の整備をおこなった。大手を城の東側に移し南北3km、東西3~500mの細長い城下町が作られた。このような整備に当たった坂崎氏であったが「千姫事件」により、わずか16年の治世であった。

元和3年（1617）には因幡鹿野（現鳥取市）亀井政矩が4万3千石の城主として入城した。藩邸は当初現在の役場がある殿町に在ったが火災により焼失したため現在の津和野高校へ移転している。防衛上の堀には津和野川を利用していたが、さらに人口の外堀も寛永15年（1638）に整備され、この時点で城下町がほぼ完成されたと考えられた。

右下の絵図は、本調査区付近を南東から見て描いた幕末頃の風景図である。本調査区は堀内の武家屋敷地内であったため、外堀、土手の向こう側の部分に当たる。



堀内御番所の景（津和野百景図より）



第3図 位置と周辺の遺跡分布

## 第3章 調査概要

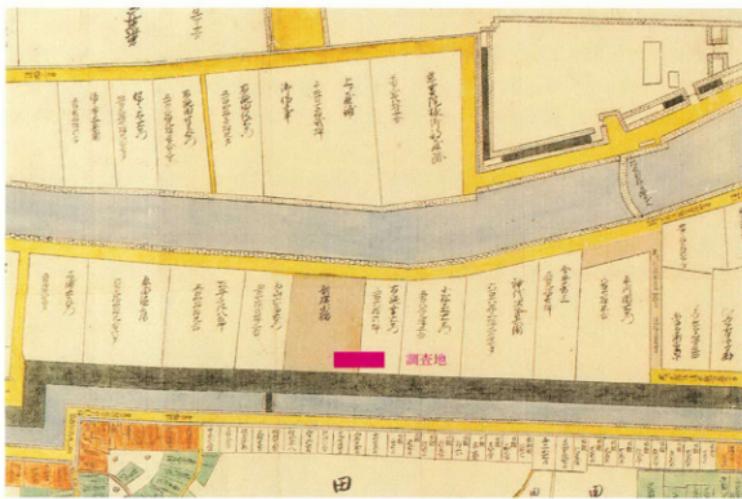
### 第1節 調査地点と調査区の設定

#### 1. 調査地点

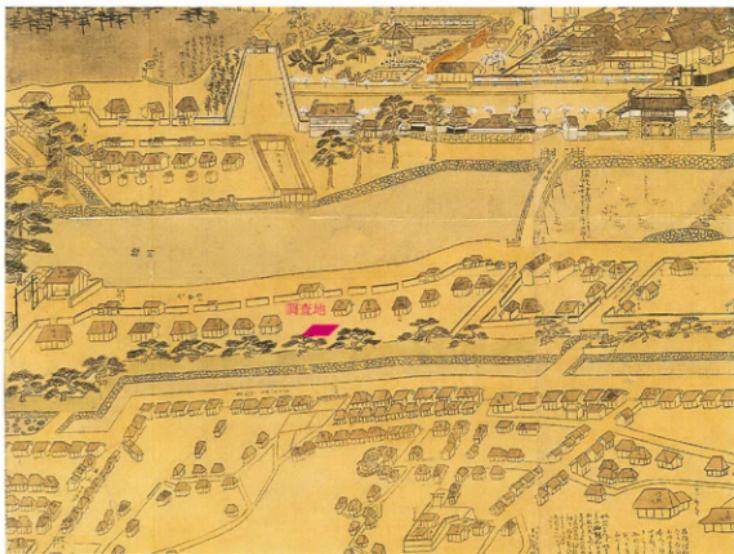
今回の消防センター建築工事予定地は、津和野城下町遺跡の中央より僅かに南西に位置しており、標高約160mを測り、現在は大字森村と呼ばれている（第4図）。現存する元禄期の屋敷絵図から判断すると、調査区の北側は布施家（中級武家屋敷）の敷地であると考えられ、南側は空き地であったようである（第5図）。また、幕末期の城下町絵図においても屋敷と空き地が描かれている（第6図）。そして、明治以降においては田畠の時期や木工所などが建っていたようであり、調査直前においては町営の駐車場であった。



第4図 調査地点位置図



第5図 元禄期の調査区周辺絵図

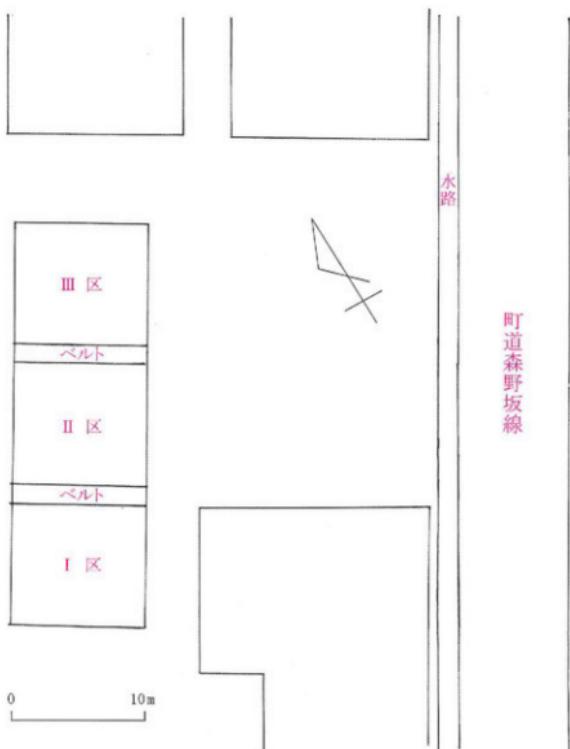


第6図 幕末期の調査区周辺絵図

## 2. 調査区の設定

消防センター建設工事予定地は全体で約 300 m<sup>2</sup>を測る。調査方法としては全面発掘調査をする方向でスタートした。しかし、工事中において重要な遺構等が発見された場合は島根県文化財課と協議をすることとし、設計担当者に協力してもらい現状保存が可能な場合は設計変更も考えてもらうことにした。

そして、工事予定範囲とほぼ同形の東西 10 m × 南北 30 m の長方形を設定し調査区とした。なお、調査を進めやすくするため調査区を 3 つに区切ることにし、75 cm 幅のベルトを 2ヶ所設けた。そして、南側から調査区 I・II・III としてベルト部分を含めて合計約 300 m<sup>2</sup>を測る部分を発掘調査した（第 7 図）。



第 7 図 調査区配置図

## 第2節 層序と層位

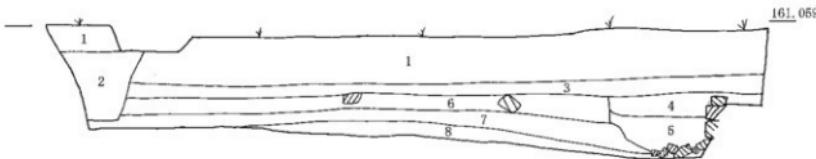
### 1.はじめに

本節で記している土層の色彩は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人 日本色彩研究所が監修している、小山正忠・竹原秀雄 著『新版 標準土色帖 2004年版』を使用している。

### 2.層序状況

本遺跡のI区南側の基本層序は、1層の表土（盛土）、2層は搅乱層、3層は旧耕作土、4層は暗褐色土（7.5YR3/3）、5層は暗褐色土（7.5YR3/3）で20cmくらいの石を多く含む、6層は褐色土（7.5YR4/3）で5~10cmの小石を多く含む。7層は褐色土（7.5YR4/6）で砂質土である。8層は礫層である。II区南壁の基本層序は、1層の表土（盛土）、2層の旧耕作土、3層は褐色土（7.5YR4/3）、4層は礫層、5層は褐色土（7.5YR4/3）、6層は褐色土（10YR4/6）で砂質土である（第7図・図版4）。III区南壁の基本層序は、1層の表土（盛土）、2層の搅乱層、3層の旧耕作土、4層の搅乱層、5層の橙色土（7.5YR3/1）、6層の黒褐色土（7.5YR3/2）、7層の褐灰色土（7.5YR5/1）、8層の橙色土（7.5YR6/6）、9層の褐色土（7.5YR4/3）、10層のにぶい橙色土で砂質（7.5YR6/4）、11層の黒褐色土（7.5YR3/2）で炭を含む。12層は橙褐色砂質土である。

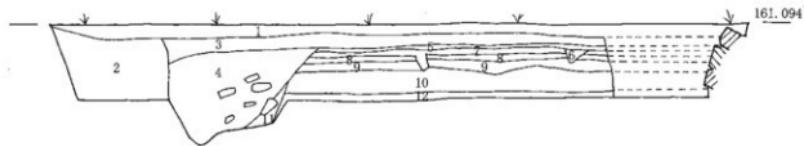
以上のようにI、II、III区の基本層序を記述した。調査区全体として大まかに層を分類すると、まず旧耕作土より上層は昭和以降に造成されたものである。その下層（主に褐色土）が江戸時代に当たり遺物を多く含む包含層で一部分ではあるが鎌倉時代の遺物が混入している。さらに下層の砂質土になると弥生土器が多く出土する。このような層序は、これまでの城下町遺跡（森村地区）を発掘調査した結果と相違はない。時代的に見ると弥生時代から鎌倉時代、そして江戸時代といった移り変わりが確認できる。しかし、室町時代（戦国時代）の遺物や遺構は検出されていない結果となった。このことは、中世の吉見氏の時代では町の中心は城の西側にあり、おそらく本調査地点は田畠であつたと思われた。



第8図 土層図（I区南壁）



第9図 土層図（II区南壁）



第10図 土層図（III区南壁）

### 第3節 遺構と遺物

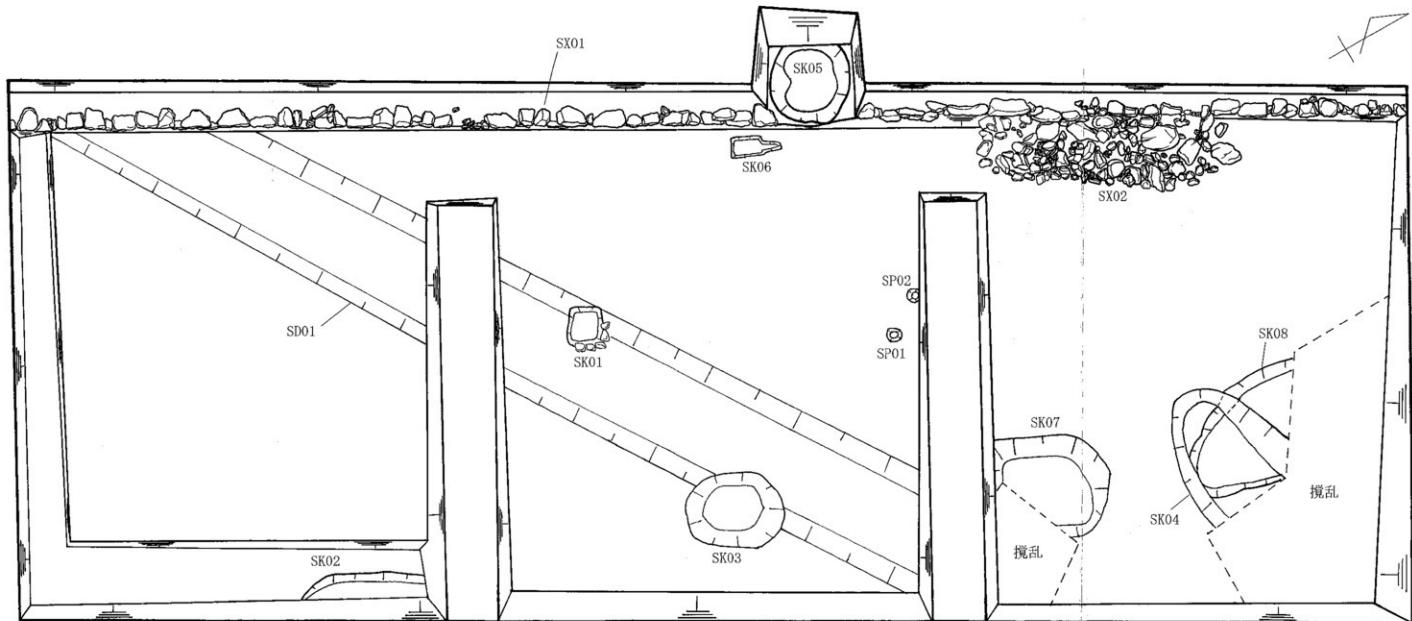
#### 1. はじめに

本節で述べる遺構については、柱穴を S P、土構を S K、溝状遺構を S D、石積遺構を S X と略号した（第10図）。また、遺構に伴う遺物を重点的に選別することとし、遺構ごとにまとめて報告することにした。その他の遺構とは関連がしないと判断した出土遺物については、本節の最終項でまとめて報告する。なお、遺物詳細については遺物観察表をもって説明に代えたい。

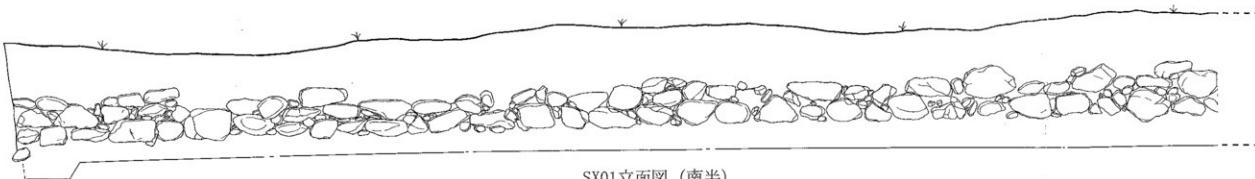
#### 2. 検出遺構

S P と称した遺構は2ヶ所検出された。SP01は直径 20 cm、深さ 15 cmを図る。SP02は直径 20 cm、深さ 15 cmを図る（第1表、図版 6.7）。これら以外の柱穴状の遺構が確認できなかったため、どのような建物等に関連する遺構であるのか判断できなかった。また、建物等に關係するものではなく、想像するに上面には耕作土があることから稲穂立ての一部であるとも考えられた。出土遺物は両遺構とも出土しなかった。

S X と称した遺構は2ヶ所検出されている。SX01は、石積遺構として調査区とほぼ並行して南北を横断する形で検出された。検出状況から考えると調査区の両外側に向

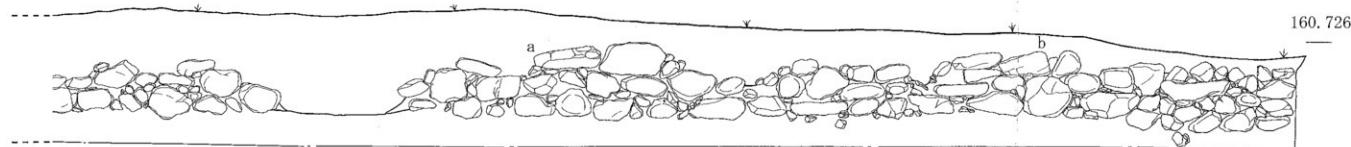


160.726

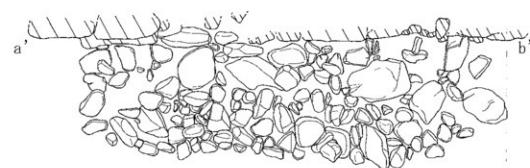


SX01立面図（南半）

160.726



SX01立面図（北半）



SX02平面図

0 1 2 3m

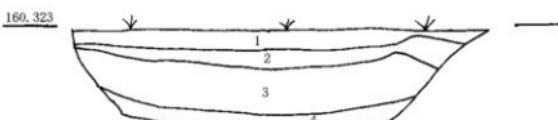
て続いていることは明らかであった。絵図から判断して本調査区は2軒分の屋敷を対象とした区域であると考えていたので、この地区的武家屋敷全体の共同的石垣であった可能性がある。また石垣の東側は建物遺構等が確認されていないことや、ゴミ捨て場のような遺構（SK）が多く検出していることから、石垣から西側に住居的な建物が集中しており、その境になる境界部分に石積みを設け一段高くしたのではないかと思われた。石垣の高さは、約70cmを測るが上部については後世の開発によって破壊されている可能性があるので実際の高さは確定できないが、およそ現存している高さと大きな違いはないと判断した。石垣は強固に築かれたものではなく、野面積みで簡単な土留め程度の機能ではないかと思われた（第12図、図版8）。

SX02は、SX01と並行した状態で検出された。調査区の北側に位置し、幅約1.5m、長さ約4.5mを測り、20cm～50cm大の川原石を敷いた状態であった。石垣に伴うものとも考えられたが、石垣との高さや位置から判断して関係ないものと判断した。しかし、この石敷きがどのようなものであるのかは分からなかった（第12図、図版9）。

SDと称した遺構は、幅約1.5mを囲り、調査区の東北から南西に向けて約15mの長さで検出された溝状の遺構である（図版10）。ただし、溝状といつても人為的に作られた溝であるのか自然に流れていた水路であったのか判断がつかないものであった。時代的には、江戸時代の武家屋敷に伴う石垣の下面から確認されたので、中世以前に水が流れていたのではないかと思われた。中世期においては人々がこの周辺において生活した痕跡な無いため、水田もしくは畑であった可能性が強く、それらに関係した水路であったとも考えられた。しかし、はっきりした用途等については分からぬ。

SKと称した遺構は、8ヶ所検出された（第1表）。SK01は拳程度の石を方形形状に並べた形で検出された。人為的に配列したものであると思われたが、土坑の深さが僅か10cm程度であり、遺物等も確認されなかつたため、その用途については分からなかつた（図版11）。

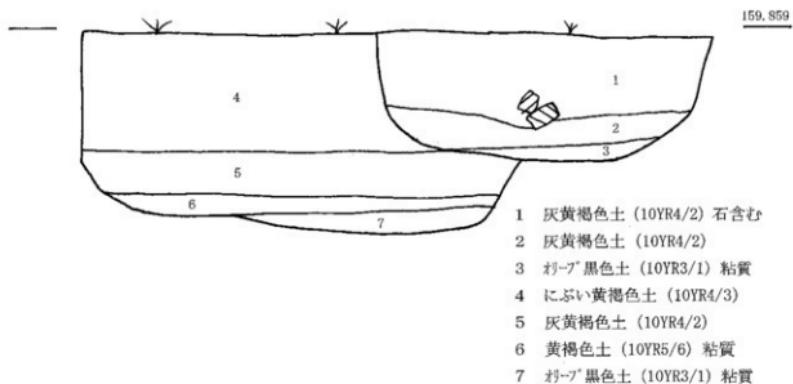
SK02は、調査区Iの東側で検出されたものであるが、調査区ぎりぎりで検出されたため、その全貌を把握することはできなかつた。大きさは分からぬが深さは約50cmを測る。遺物の出土状況等から判断しておそらくゴミ捨て遺構であると思われた。



- 1 黄褐色土 (10YR5/6) 炭含む
- 2 褐色土 (10YR5/4) 穗層
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)

第13図 SK03 土層図

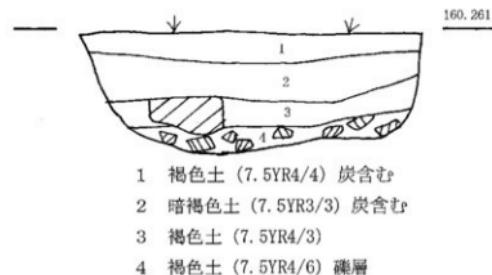
SK03は、調査区IIで検出された、2m×3mの方形で深さは約40cmである。おそらくごみ捨て等の土坑であると考えられた。出土遺物から判断して18世紀頃のものであると思われる（第13図、図版12）。



第14図 SK04・08 土層図

SK04は、調査区IIIで検出された土坑であるが、隣接してSK08もいっしょに検出された。土坑の切り合いかから判断した結果、SK08が古くSK04が後に掘られたものであると考えられた。また、出土遺物については時代差があまり無いので同時期に作られた土坑であると思われる。形状は横円形を呈しておりSK04は東西に長く、SK08は南北に長く深さはSK04より20cm程度の深くなっている。しかし、北側が昭和期以降の開発によって壊されているため実際の大きさ等は分からなかった。いずれの土坑とも18世紀頃のゴミ捨て遺構であると思われた。（第14図、図版13）

SK05は、調査区IIの西端の石垣を壊した後に掘られた土構である。1.5m×2mの方形を呈しており深さ約50cmを測る。なぜ、石垣を壊して掘られたのか、壊れた後に掘られたのかは判断できなかった。形状や出土遺物から判断して、幕末かそれ以後に作られたゴミ捨て遺構であると判断した（第15図、図版14）。



第15図 SK05 土層図

SK06は、西側で検出された石列の近くから検出されたものである。約50cm×100cmの方形であるが、用途については判断できなかった。また、出土遺物は確認されていない(図版15)。

SK07は、調査区IIとIIIの境で検出されたものである。約250cmの方形を呈しており、深さ60cmを測る。しかし、東側が攪乱を受けていたため実際の大きさ等は分からず。出土遺物等から考えて、おそらく18世紀頃のゴミ捨て遺構であると判断した(図版16)。

以上のようにSKについて考察した結果などから、本調査区は住居地と外堀の間の空間に位置していたと考えられた。そのため、火事などによって生活用品を処分する場合に穴を掘って埋めた場所が土坑として検出されたのである。また、土坑の検出された標高が約160mであり、石垣の底辺の標高とほぼ同じであることから、江戸時代の生活面であったと考えられた。

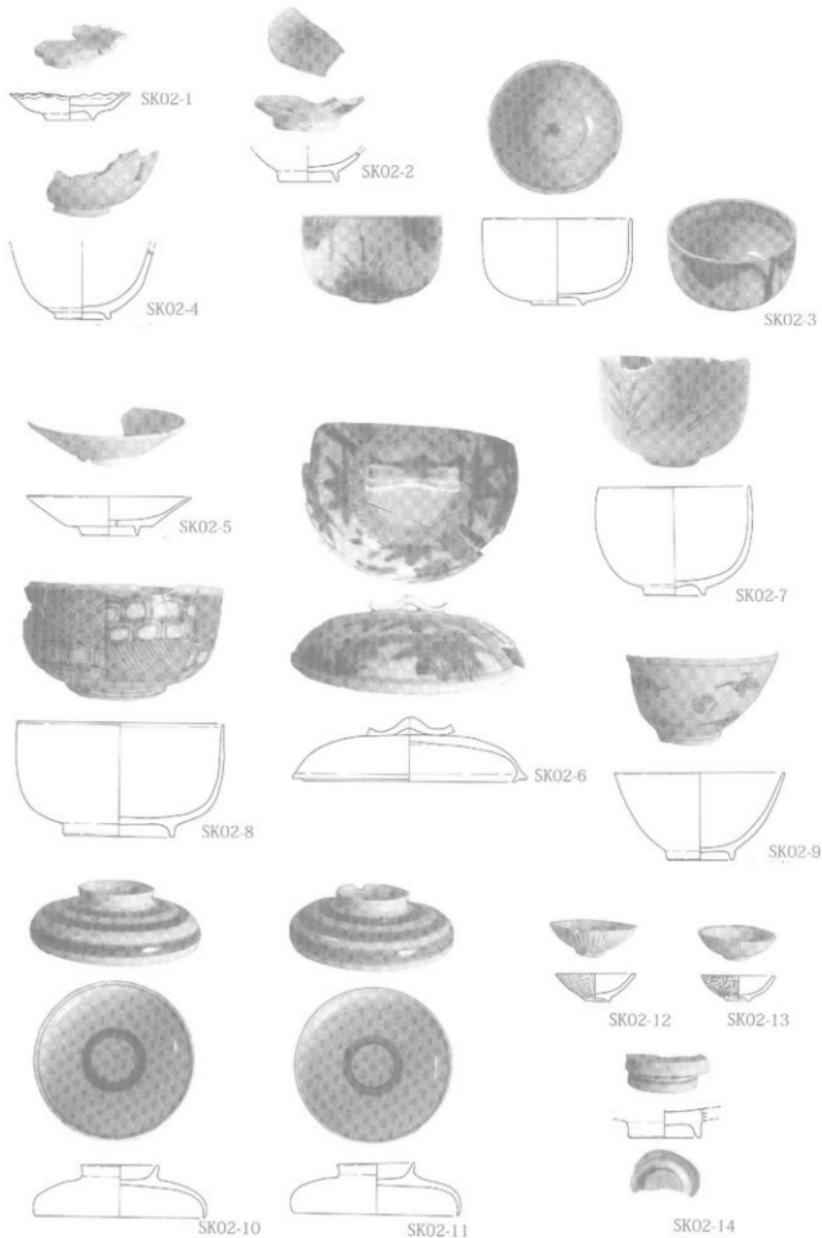
第1表 検出遺構(SP・SK)計測表

	検出地点	上面(標高m)	深さ(cm)	直径(cm)	遺物
SP01	II区	160.118	約15	約20	無
SP02	II区	160.095	約15	約20	無
SK01	II区	160.662	約10	約80	無
SK02	I区	160.287	約50	約280	陶磁器、土師器等
SK03	II区	160.323	約40	約200	陶磁器、土師器等
SK04	III区	159.859	約45	約250	陶磁器、土師器等
SK05	II区	160.261	約52	約180	陶磁器、土師器等
SK06	II区	160.146	約10	約100	無
SK07	III区	159.074	約60	約250	陶磁器、土師器等
SK08	III区	159.859	約65	約250	陶磁器、土師器等

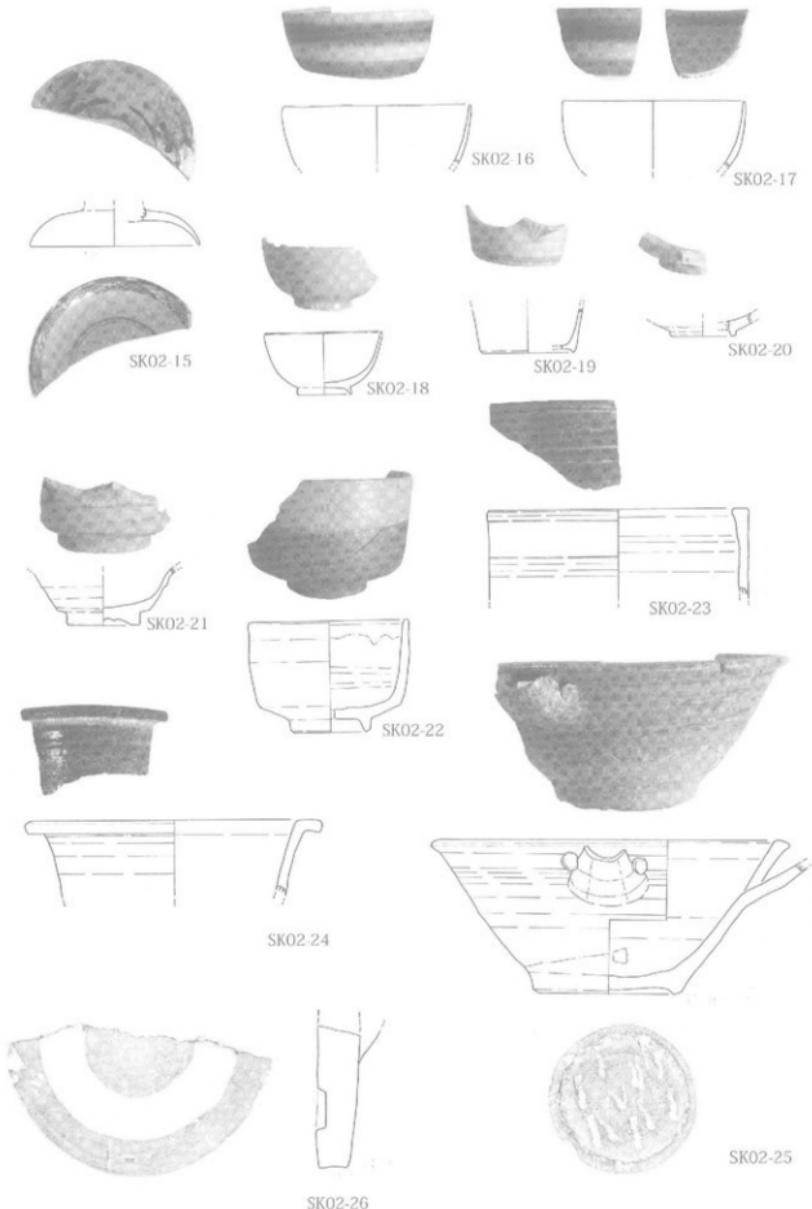
### 3. 遺物

本遺跡からは、パンコンテナー32箱からなる遺物が出土している。その内訳は、近世以降の陶磁器をはじめ、土師質の灯明皿、瓦類(燒瓦・赤瓦)などがほとんどであり、下層から僅かであるが鎌倉時代の陶磁器や弥生時代の土器が出土している。本節では、出土した遺物について遺構別に述べることとし、上層部は近代開発によって攪乱を受けており、確実に遺構内から検出された遺物の中から特徴的な物を中心に選別した。また、遺構外で出土した遺物についても特徴的な物を中心に選別した。

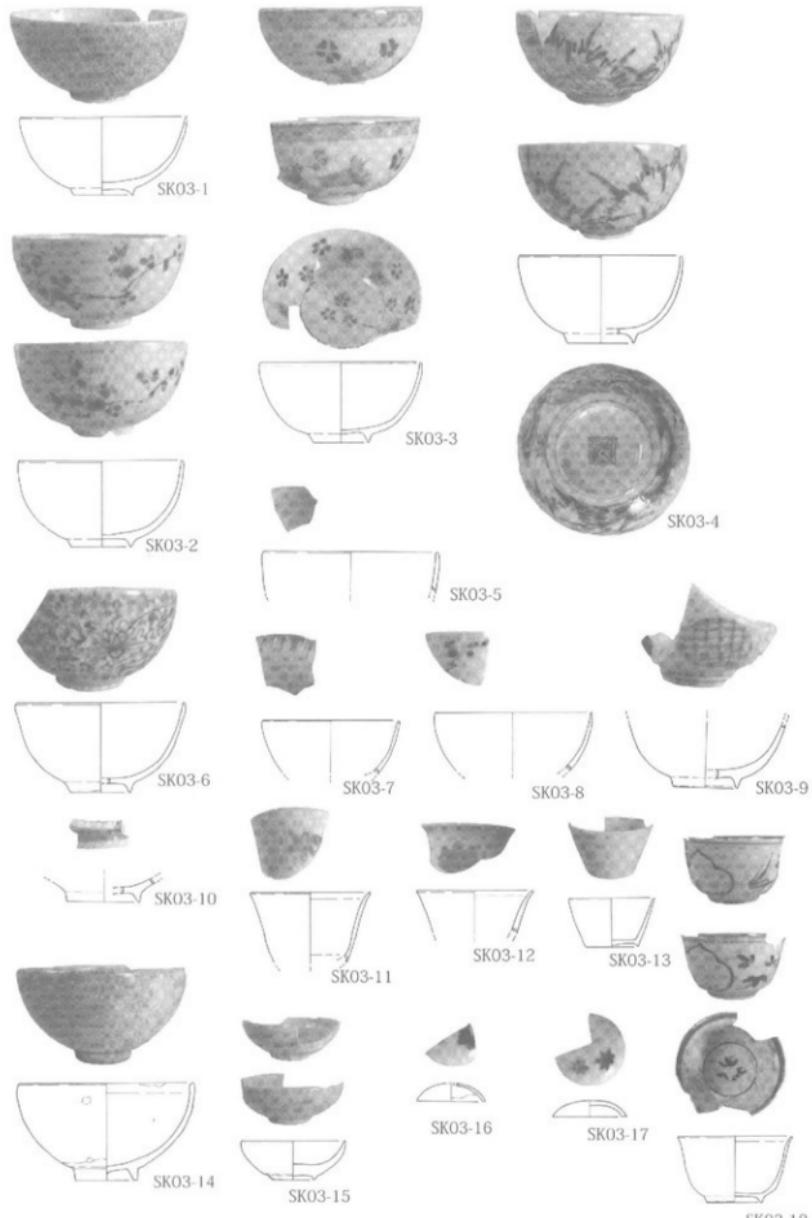
それら遺物の詳細についての説明は、以下の遺物観察表をもって説明に代えたい。



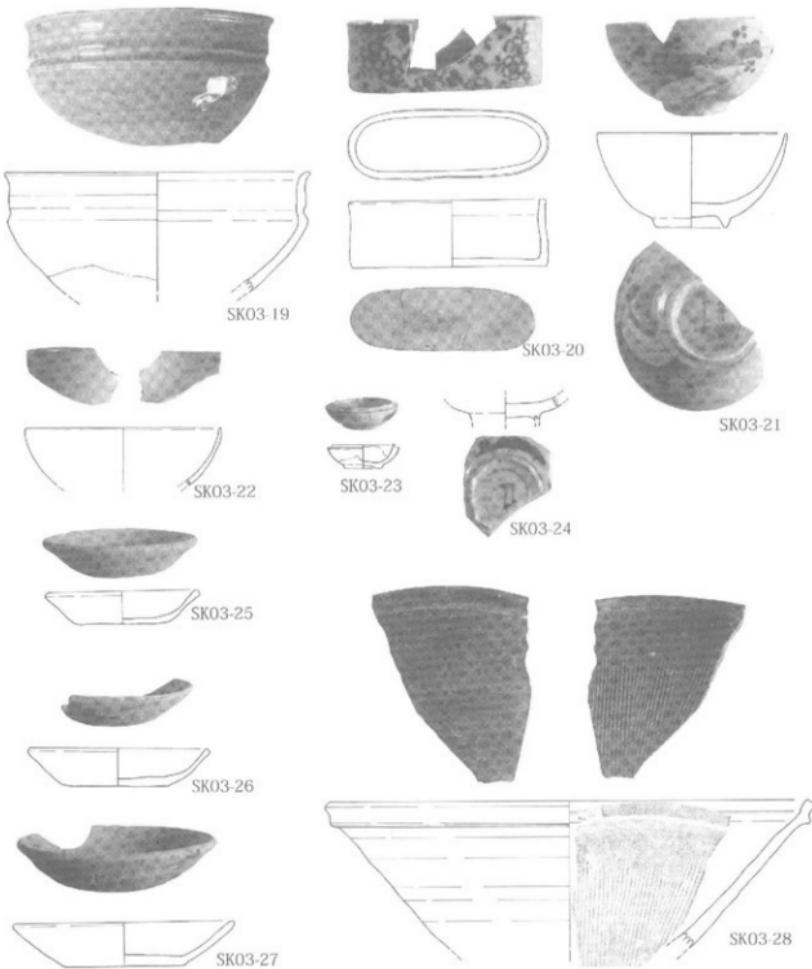
第16図 SK02出土遺物実測図①



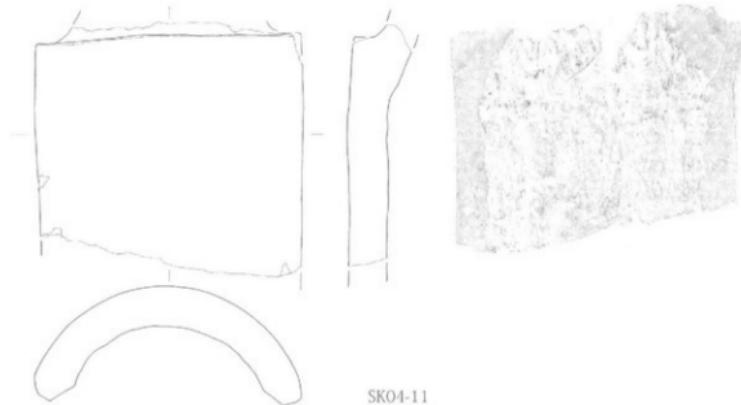
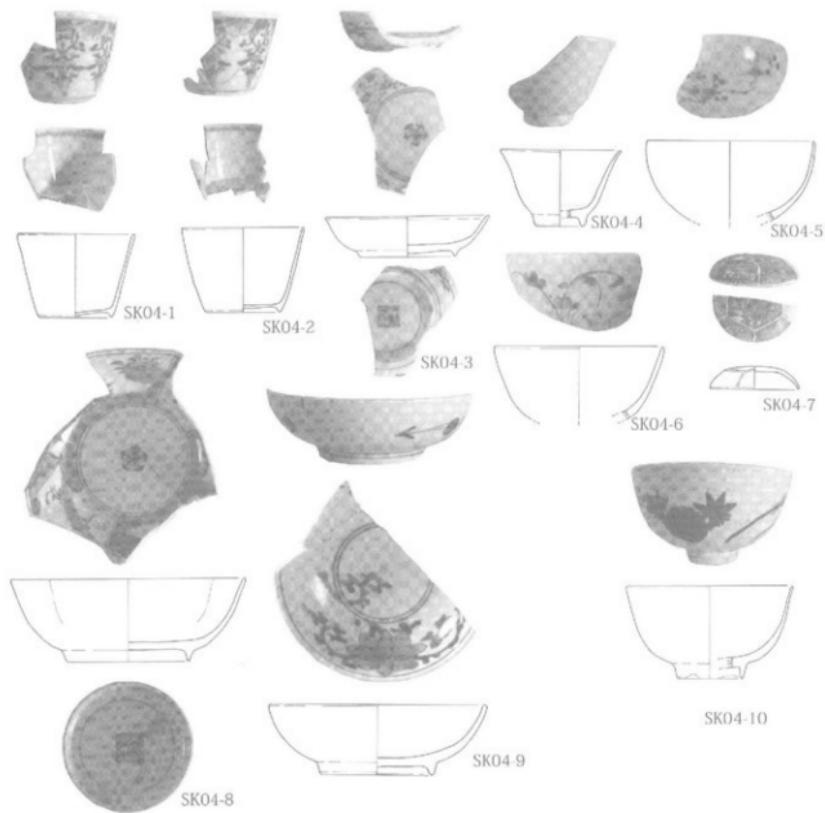
第 17 図 SK02 出土遺物実測図②



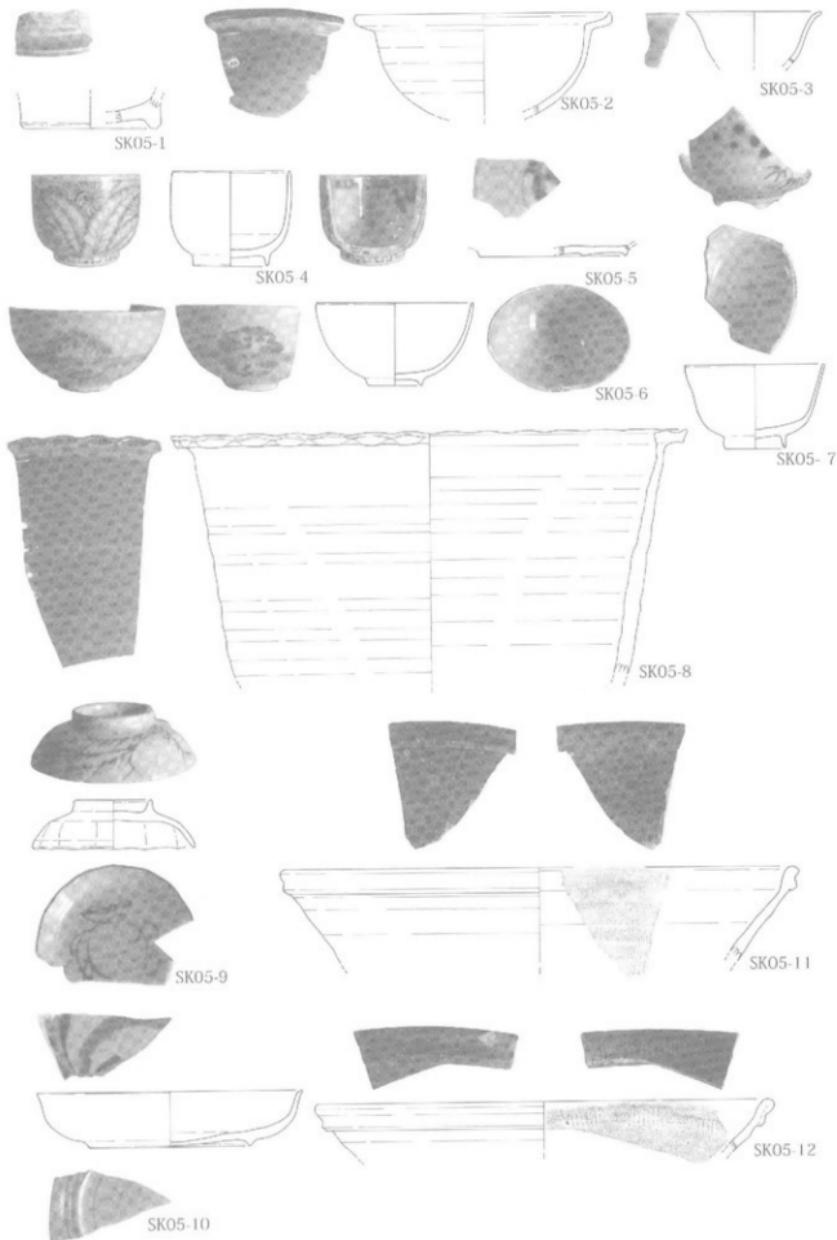
第18図 SK03出土遺物大測図①



第19図 SK03出土土器実測図②



第20図 SK04 出土遺物実測図



第21図 SK05出土遺物実測図①



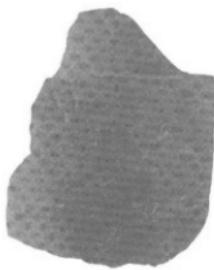
SK05-13



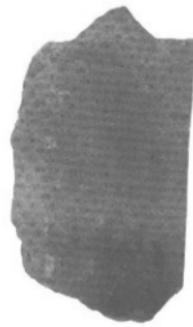
SK05-14



SK05-15

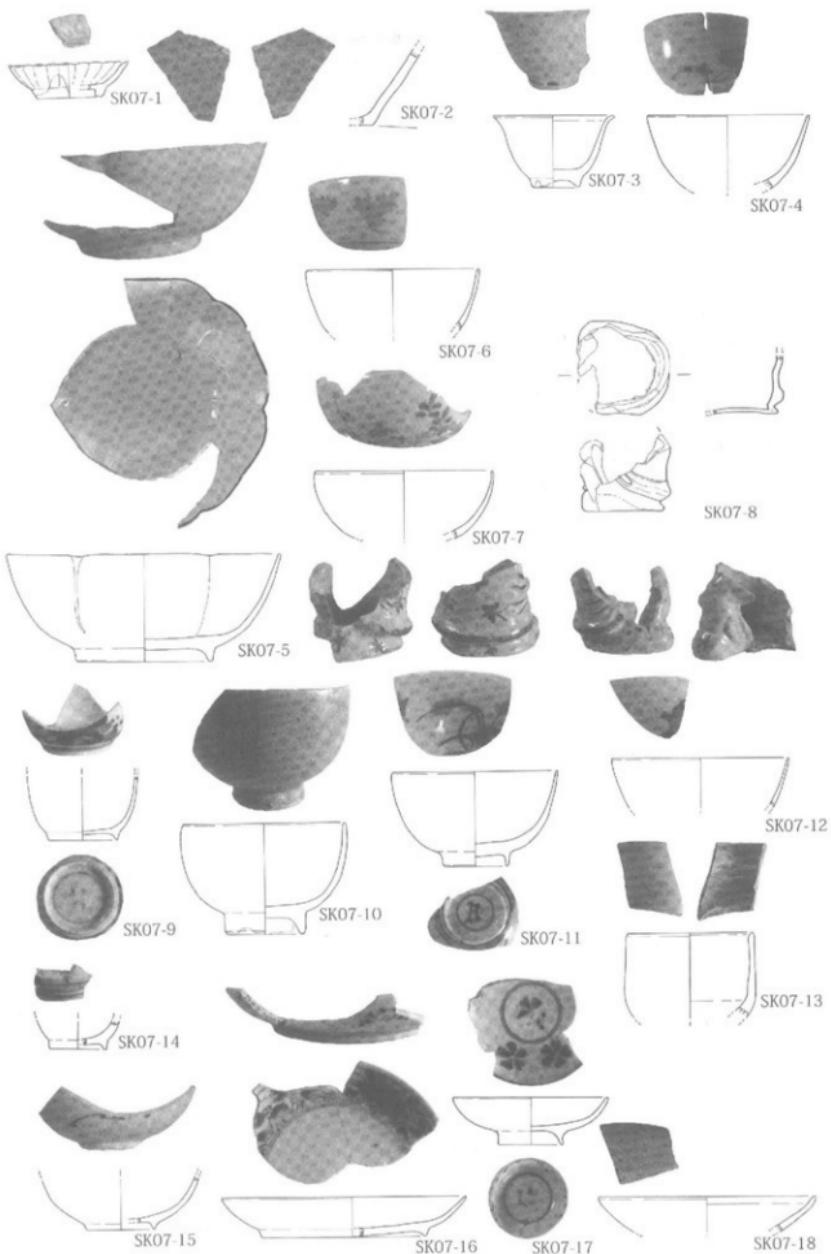


SK05-16

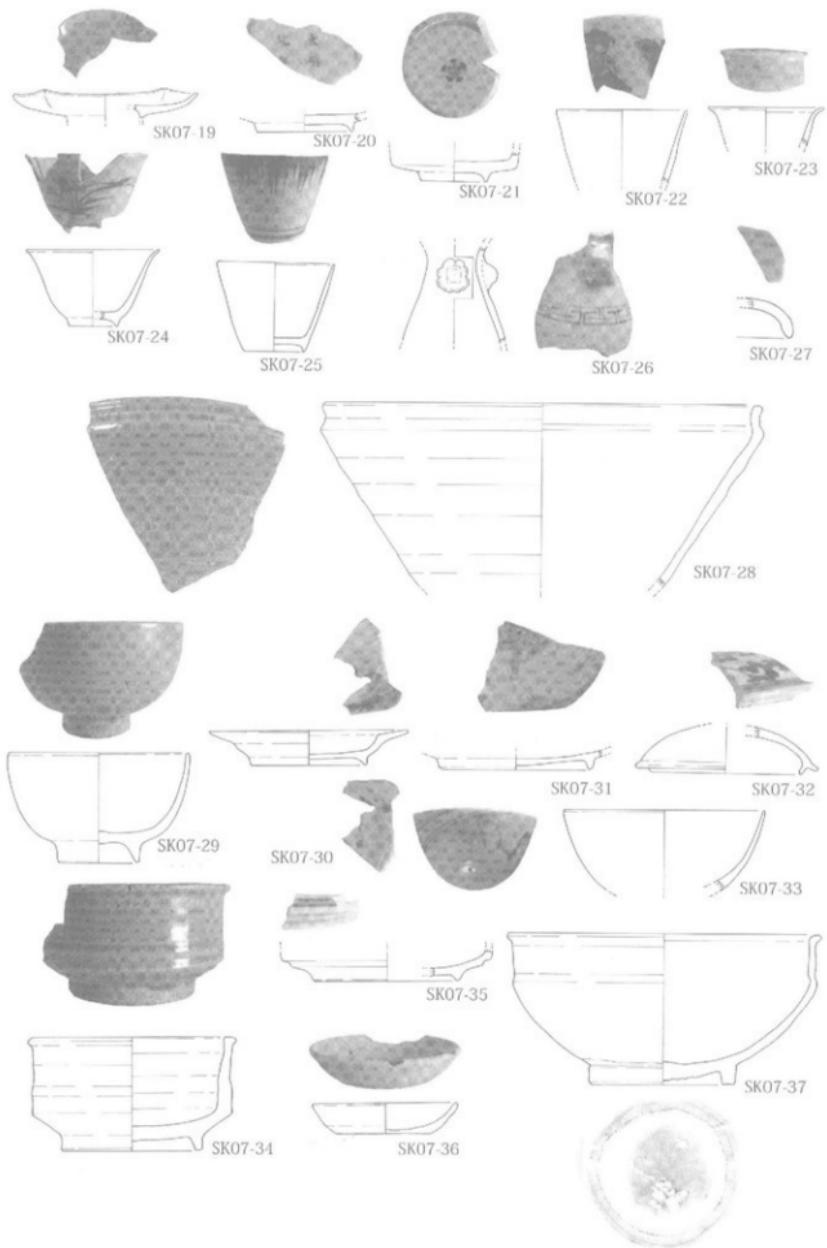


SK05-17

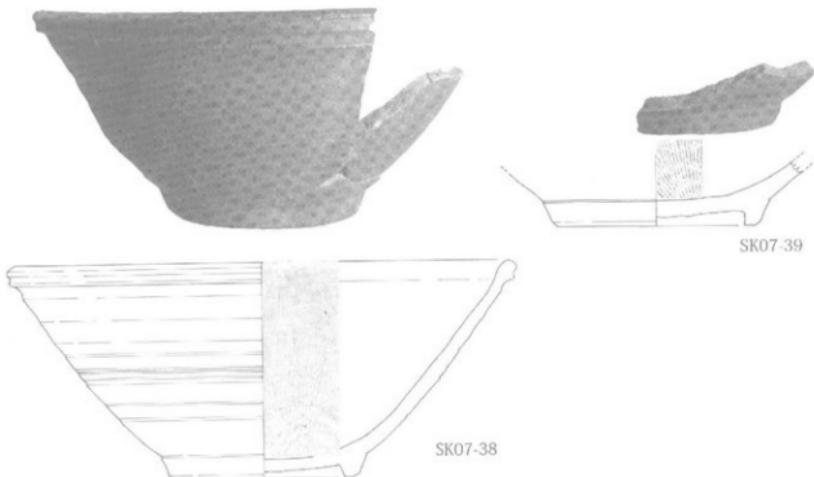
第22図 SK05出土遺物実測図②



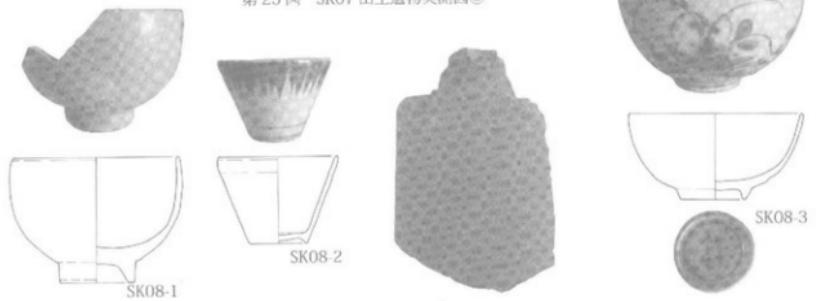
第23図 SK07 山土遺物実測図①



第24図 SK07出土遺物実測図②



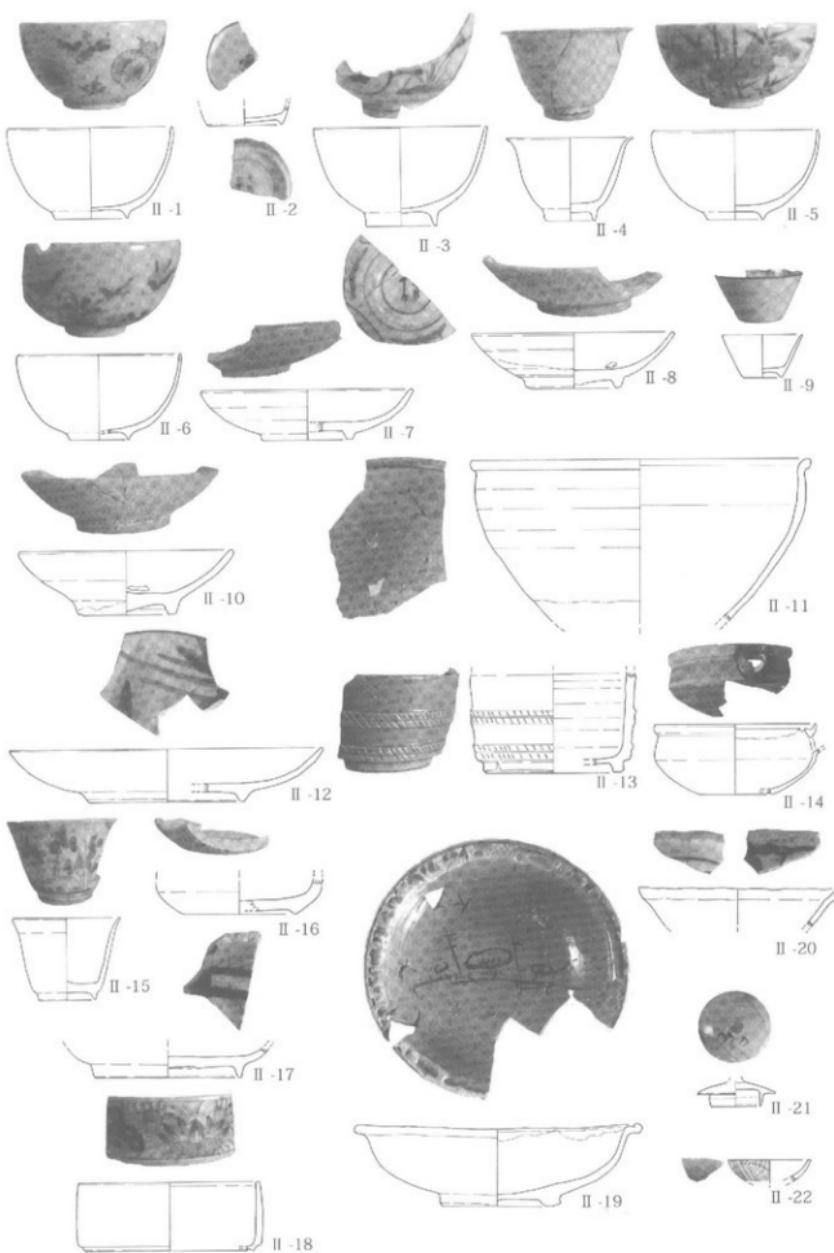
第25図 SK07出土遺物実測図③



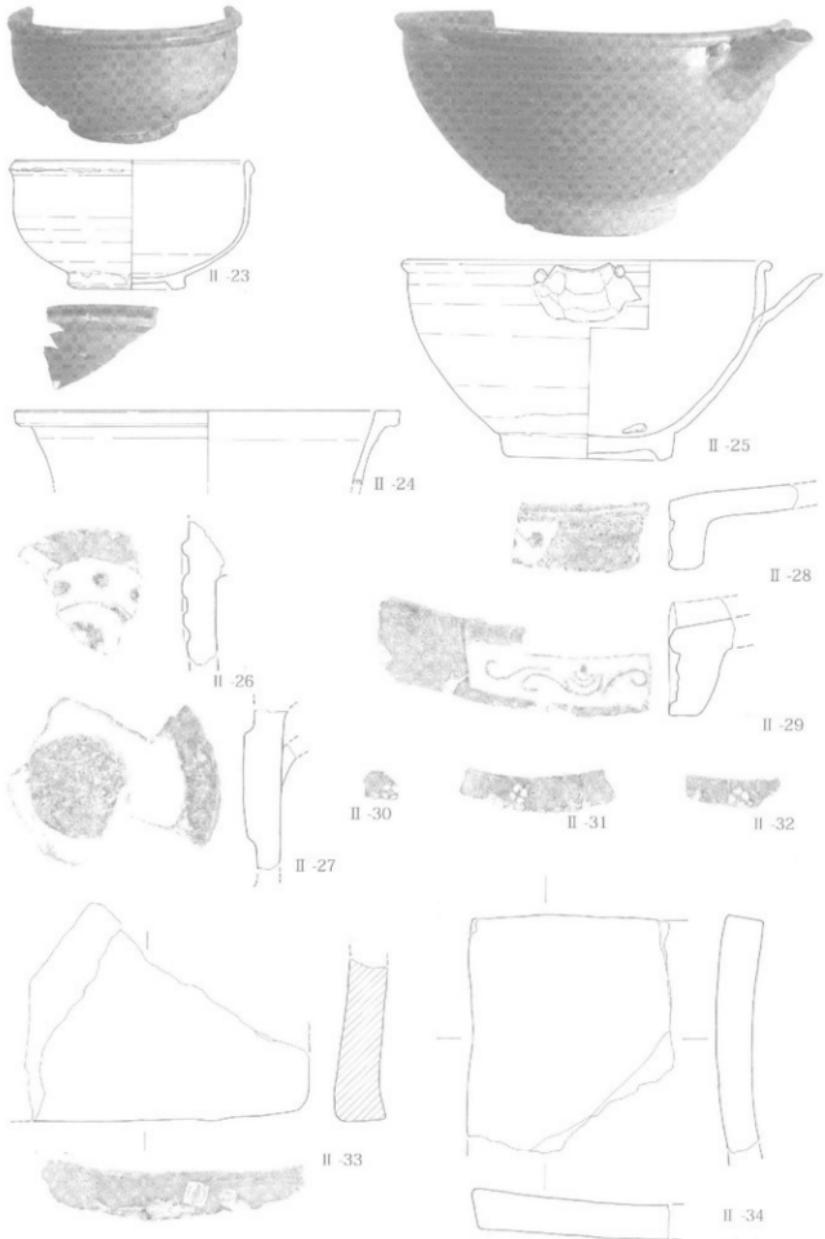
第26図 SK08出土遺物実測図



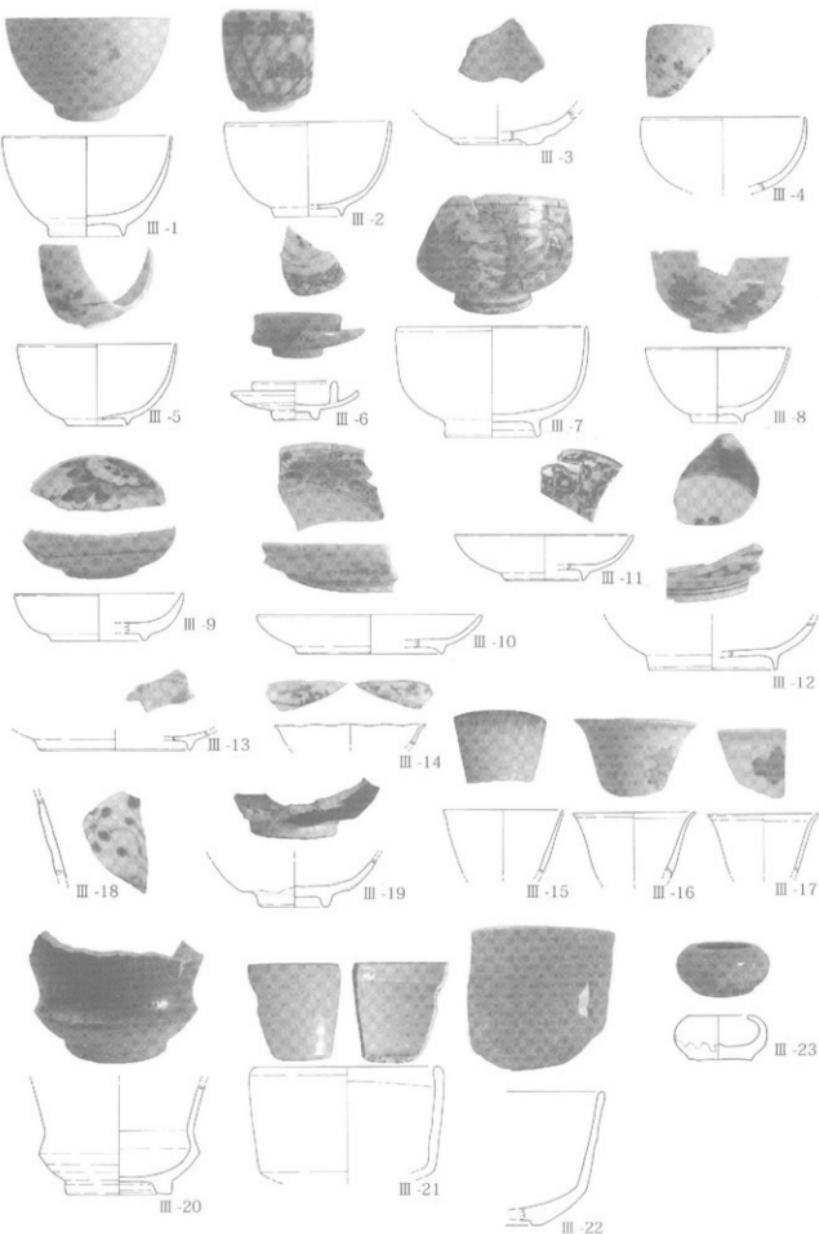
第27図 1区出土遺物実測図



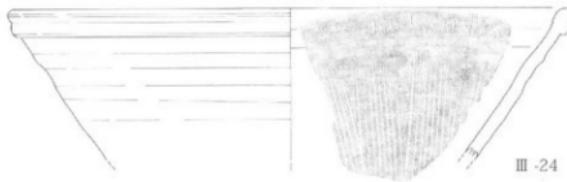
第28図 II区出土遺物実測図①



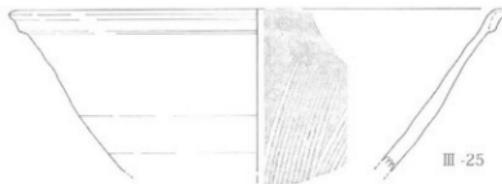
第29図 II区出土遺物実測図②



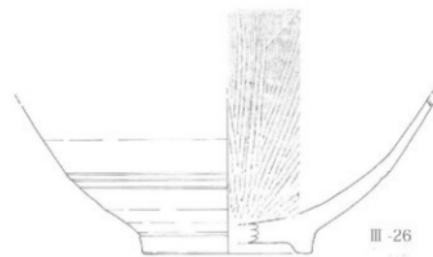
第30図 III区出土遺物実測図①



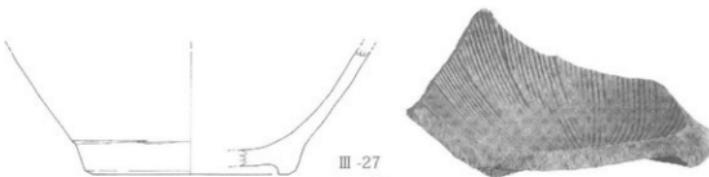
III -24



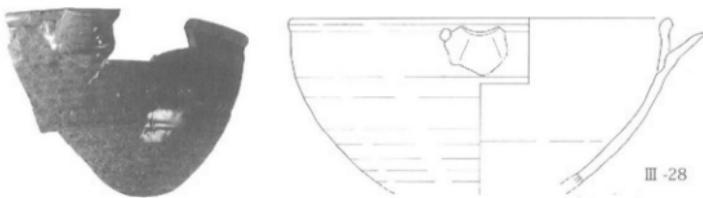
III -25



III -26

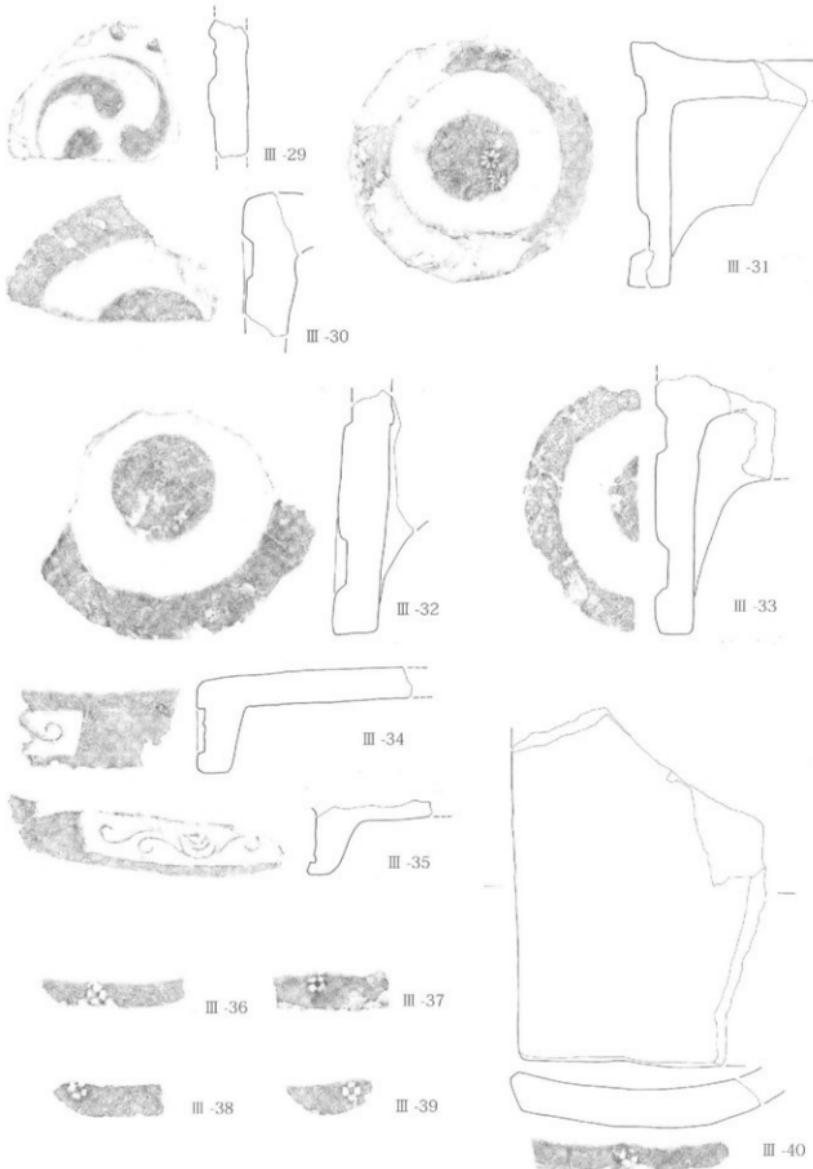


III -27

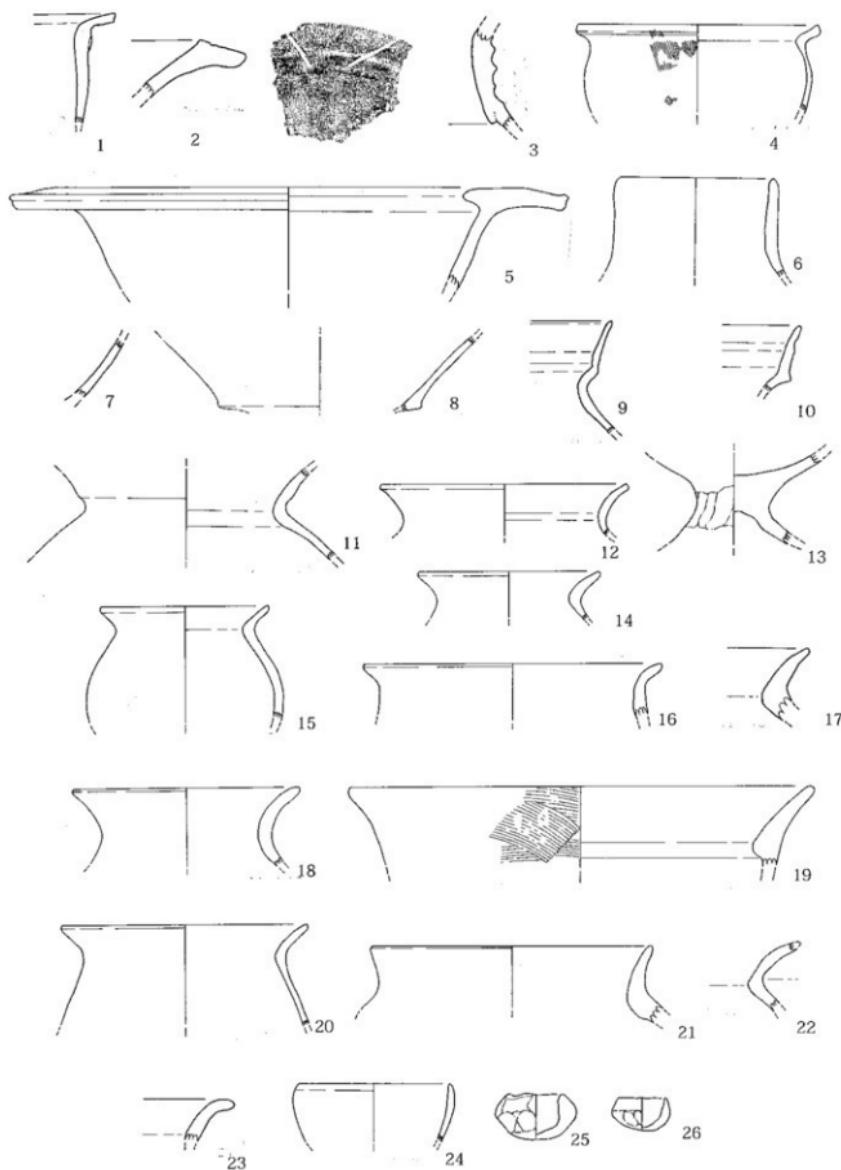


III -28

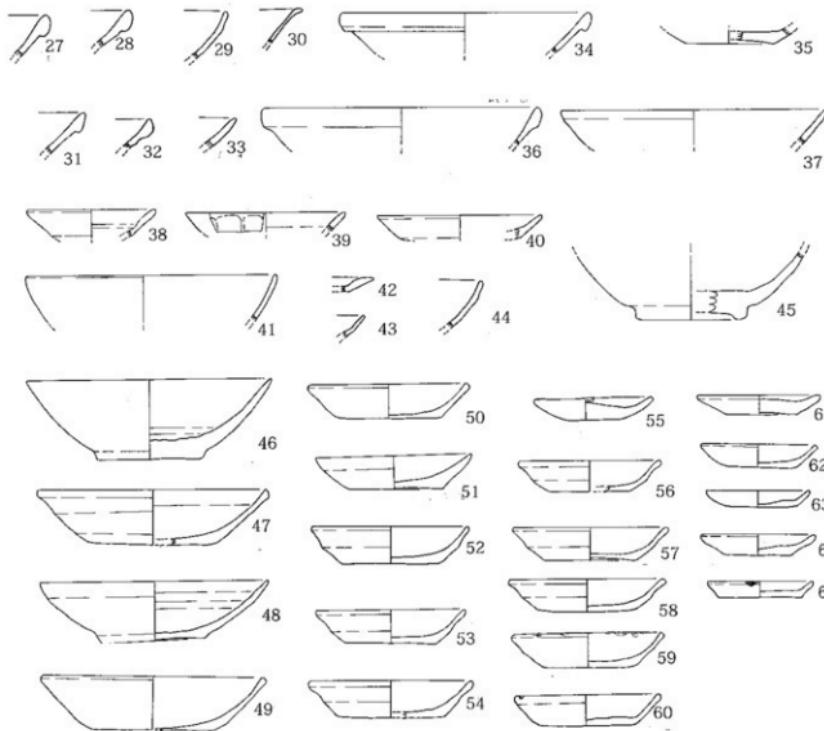
第31図 III区出土遺物実測図②



第32図 III区出土遺物実測図③



第33図 その他の時代の遺物実測図①



第34図 その他の時代の遺物実測図②

第2表 SK02 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)	年代	産地	備考	
						口径	底径
SK02-1	磁器	皿	極小皿 7.4 2.8 1.7	17c初	瀬戸		
SK02-2	磁器	碗	碗 — 3.6 —	18c初		染付 (外・見込) 不明	
SK02-3	磁器	碗	小碗 9 3.2 5.3	1780~1802		染付 (口縁内) 西方擇文 (外) 草文 (見込) 五弁花	
SK02-4	磁器	碗	碗 — 3.7 —				
SK02-5	磁器	碗	酒杯 10 3.1 2.4	18c末~19c初			
SK02-6	磁器	蓋	蓋物蓋 14.5 5.3 4	18c後~19c		染付 (外) 笔文	
SK02-7	陶器	碗	小碗 9.2 3.6 6.7	18c中~後	京都	色絵 (外) 竹文	
SK02-8	磁器	碗	大碗 12.6 6.6 7	18c末~19c初		染付 (外) 魚甲文と斜格子文 蓋つき碗	
SK02-9	磁器	碗	中碗 10.4 4 5.3	19c初		染付 (外) 寿? とその他不明 (見込) 寿?	
SK02-10	磁器	蓋	中碗蓋 10.3 4.7 3.2	19c初		染付	
SK02-11	磁器	蓋	中碗蓋 10.1 4.7 3.2	19c初		染付	
SK02-12	磁器	碗	紅猪口 5 1.5 1.75			外型成型	
SK02-13	磁器	碗	紅猪口 4.5 1.5 1.5			外型成型	
SK02-14	磁器	不明	— 4.2 —			染付	
SK02-15	磁器	蓋	中碗蓋 10.2 — —			染付 (外) 花文 (口縁内) 西方擇文	
SK02-16	磁器	碗	中碗 11.3 — —	19c初		染付	
SK02-17	磁器	碗	中碗 11 — —	19c初		染付	
SK02-18	磁器	碗	小碗 7.1 3.2 3.8				
SK02-19	磁器	鉢	猪口 — 5.6 —			染付 (外) 草文	
SK02-20	陶器	碗	— 3.8 —			萩?	
SK02-21	陶器	碗	— 4.4 —			深川	
SK02-22	陶器	鉢	楕木鉢 9.4 4.4 6.8			元は香炉か火入れであった可能性が高	
SK02-23	陶器	不明	15.8 — —				
SK02-24	陶器	鉢	楕木鉢 17.5 — —				
SK02-25	陶器	鉢	片口 20.7 9.1 9.2			須佐 高台無難 目跡5箇所	

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)				備考
			長	幅	径	厚	
SK02-26	焼瓦	軒丸瓦	残存4.2	16.3	16.2	—	周縁径2.3cm 瓦当厚2.5cm 外面一部光沢あり

第3表 SK03 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考	
			口径	底径	器高				
SK03-1	磁器	中碗	10.1 3.6 4.8			18c前		染付 (外) 水製地	
SK03-2	磁器	中碗	10.2 3.7 5.3			18c		染付 (外) 梅文	
SK03-3	磁器	中碗	10 3.4 4.95			18c		染付 (内・外) 梅文・稻束文 (口縁) 西方擇文	
SK03-4	磁器	小碗	9.8 4.2 5.4			18c		染付? (外) 草文 (底) 二重渦織	
SK03-5	陶器	中碗	10.6 — —			18c	廣津		
SK03-7	磁器	小碗	8.4 — —			18c		染付 (外) 雨降文	
SK03-8	磁器	中碗	9.5 — —			18c	肥前	染付 (外) 梅文	
SK03-9	磁器	碗	— 4 —			18c	肥前	染付 (外) 丸文 (底) 大明?	
SK03-10	磁器	碗?	— 4.4 —			18c	肥前系	染付 (外) 不明	
SK03-12	磁器	小杯	7.2 — —			18c		こんなにやく印判 (外) 不明	
SK03-13	磁器	猪口	5.2 3.2 3			18c			
SK03-14	陶器	中碗	10.7 3.7 5.9			18c	萩?	外面に突起物	
SK03-15	磁器	小皿	6.2 2.6 2.4			18c		染付 (外) 不明	
SK03-16	磁器	蓋	4.2 — —			18c		紗綾形文の外型成型の後、染付	
SK03-17	磁器	蓋	4.8 — 1			18c		こんなにやく印判? (外) 紅葉	
SK03-18	磁器	小杯	7 3.4 4.05			18c		染付 (外) 窓が描かれるが絵はなし 窓絵の周りは草文 (見込) 草文	
SK03-19	陶器	中鉢	18.4 — —			18c	須佐		
SK03-20	陶器	甕	12.2 11.9 4.1					鉢絵? (外) 梅文 (底) 墨書きで「た」	
SK03-21	磁器	中碗	11.6 4.4 5.8					染付 (外) 梅文と鶴? (底) 大明年製	
SK03-22	陶器	中碗	11.8 — —				京都	内側に青で文様が書かれていたようだが、剥離して不明	
SK03-23	磁器	合子	4.4 2.2 1.45					染付 (外) 紗綾形文か	
SK03-24	磁器	碗	— — —					染付 (底) 大明年製	
SK03-25	土師器	皿	9.4 5 2					胎土密 焼成良好 内外面ロクロナデ 底部糸切痕	
SK03-26	土師器	皿	11.1 6 2.4					胎土密 焼成良好 底部内外白灰色 内外面ロクロナデ 底部糸切痕	
SK03-27	土師器	皿	13.6 7.6 2.7					胎土密 焼成良好 内外面ロクロナデ 底部糸切痕	
SK03-28	陶器	擂鉢	29 — —				須佐	擂目數不明	

第4表 SK04 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考
			口径	底径	器高			
SK04-1	磁器	猪口	7.2	4.4	5.15	17c末	-	染付 (外)花唐草文 (見込)五弁花 (口縁内)渦巻き (底)大明○化年〇
SK04-2	磁器	猪口	7.4	4.6	5.2	17c末	-	染付 (外)花唐草文 (見込)五弁花 (口縁内)渦巻き
SK04-3		小皿	10	5.8	2.6	17c末	-	染付 (内・外)唐草文 (見込)五弁花 (底)二重禍福 一
SK04-4	磁器	小杯	7.4	2.8	4.7	17c末～18c初	-	染付 (外)不明
SK04-5	磁器	中碗	10	-	-	19c前～中	-	染付 (外)梅文
SK04-6	陶器	中碗	10.2	-	-	-	-	染付? (外)草花文
SK04-7	磁器	合子蓋	5.4	-	1.4	-	-	形押成型 色絵 火を受ける
SK04-8	磁器	五寸皿	14.5	7.6	5.05	-	-	染付 (外)唐草 (内)四区画に橋と何か (見込み)五弁花
SK04-9	磁器	五寸皿	13.4	6.9	4.35	-	-	染付 (外)丸と線? (内)花唐草
SK04-10	磁器	中碗	10	4	5.7	-	-	染付 こんにやく印判か (外)草花文

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)				備考
			長	幅	径	厚	
SK04-11	煙瓦	丸瓦	残存15.5	残存16.5	-	2.5	

第5表 SK05 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考
			口径	底径	器高			
SK05-1	磁器	不明	-	8	-	17c末	肥前系	色絵
SK05-2	陶器	小鉢	15.4	-	-	19c初	石州	
SK05-3	陶器	小杯	8	-	-	19c前	京信系	
SK05-4	磁器	小碗	7.2	4	5.8	19c後半	肥前系	染付 (外)草文 (口縁内)雷文 (高台外)櫛齒文
SK05-5	磁器	不明	-	9	-	19c		蛇ノ目凸形高台 染付 (内)不明
SK05-6	磁器	小碗	9.6	3.3	5.1	19c		染付 (外)松竹梅文 (口縁内)雷文 (見込)松竹
SK05-7	磁器	小碗	8.5	3.6	5.2	19c		染付 (外)松竹梅文 (見込)不明
SK05-8	陶器	植木鉢	31.6	-	-	19c	須佐	
SK05-9	磁器	中碗蓋	10	4.6	3	-		染付 口銷 (外)筆文 (内)不明
SK05-10	磁器	五寸皿	16.2	9.8	3.4	-		染付 (外)唐草文 (内)草文・唐草文
SK05-11	陶器	擂鉢	31.2	-	-	-	須佐	擂目不明
SK05-12	陶器	擂鉢	27.6	-	-	-	須佐	擂目不明

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)				備考
			長	幅	径	厚	
SK05-13	煙瓦	平瓦	残存8.8	残存11.2	-	2.3	側面にスタンプあり
SK05-14	煙瓦	軒丸瓦	残存3.4	残存12.7	復元19.4	2.7	周縁径2.6cm
SK05-15	煙瓦	軒平瓦	残存9.8	残存15.6	-	2.3	瓦当部にスタンプあり 頸部幅3.2cm 瓦当幅4.9cm
SK05-16	煙瓦	丸瓦	残存15.8	残存11.4	-	2.5	
SK05-17	煙瓦	丸瓦	残存19.3	残存8.4	-	2.9	穿孔1つあり

第6表 SK07 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考
			口径	底径	器高			
SK07-1	陶器	極小皿	7.3	4	2.1	中世末		
SK07-2	陶器	盤?	—	—	—	中世末		黄釉盤か
SK07-3	磁器	小杯	7.4	2.7	4.45	17c末~18c初	肥前	二次焼成を受けている
SK07-4	磁器	中碗	9.8	—	—	17c~18c初	肥前 外山窯系	染付 (外)花文
SK07-5	磁器	中鉢	16.8	8.2	6.6	17c末~18c前	肥前	口銷
SK07-6	磁器	中碗	10.4	—	—	17c~18c初	肥前 外山窯系	こんにゃく印判 (外)紅葉
SK07-7	磁器	中碗	10.8	—	—	17c~18c	肥前 外山窯系	染付 (外)草花文
SK07-8	磁器	水滴?	—	—	—	17c~18c	肥前	色繪 赤ちゃん? 猫?を抱いている
SK07-9	磁器	碗	—	4.2	—	1680~	肥前	染付 (外)穂、草花文 (底) 大明年製
SK07-10	陶器	中碗	10	4.6	6.8	18c	唐津	
SK07-11	磁器	中碗	10.2	3.8	5.8	18c	肥前 外山窯系	染付 (外)草文 (底) 大明年製
SK07-12	磁器	中皿	10.8	—	—	18c		染付 (外)太胡石
SK07-13	陶器	小碗	7.6	—	—	18c	萩	
SK07-14	陶器	猪口	—	3.5	—	18c		染付 (外)不明
SK07-15	磁器	碗	—	4.2	—	18c		染付 (外)不明
SK07-16	磁器	五寸皿	14.8	10	5.5	18c	肥前	染付 (外)唐草文 (内)花唐草 (見込)染付 草花文 外面青磁 (底)大明年製 (口縁)口銷
SK07-17	磁器	小皿	9.6	4	2.9	18c?		
SK07-18	陶器	小皿	13.4	—	—	18c	萩	
SK07-19	陶器	天目台?	—	—	—	18c	京焼	鉛繪・真須 (内)花文
SK07-20	磁器	—	—	5.8	—	18c		染付 (見込)太明成化年製
SK07-21	磁器	—	—	4	—	19c		こんにゃく印判(見込)五弁花
SK07-22	磁器	猪口	8	—	—	18c	肥前	こんにゃく印判? (外)不明
SK07-23	磁器	小杯	6.8	—	—	18c		
SK07-24	磁器	小杯	8.2	3	4.7	18c		染付? (外)草文
SK07-25	磁器	そは猪口	7.2	3.7	5.45	18c	肥前	染付? (外)雨降文
SK07-26	陶器	瓶	—	—	—	18c	京都	鉛繪・真須で富文? が描かれる
SK07-27	磁器	蓋?	—	—	—	18c	肥前	青磁
SK07-28	陶器	捏鉢?	26.6	—	—	18c	須佐	
SK07-29	陶器	中碗	11	4.7	6.8	18c	唐津	
SK07-30	磁器	皿	—	—	—	—	中国?	青花? (外)花文? (内)鳥と花
SK07-31	磁器	皿	—	9	—	—	景德镇	青花
SK07-32	磁器	蓋	11.2	—	—	—	中国	青花 (外)唐草文
SK07-33	磁器	中碗	14.4	—	—	—		染付 (外)梅と柳?
SK07-34	陶器	中碗	12.2	8.4	6.95	—	須佐4ヶ所	墨書きがあるが、判読不明
SK07-35	陶器	擂鉢	—	12	—	—	須佐	
SK07-36	土師器	灯明皿	9	5.8	1.9	—		胎土密 焼成良好 内外面口クロナ テ 底部糸切窓 灯明
SK07-37	陶器	中鉢	19.2	9.3	8.6	—	須佐	目跡4ヶ所 のみ跡あり
SK07-38	陶器	擂鉢	30.4	13.2	9.8	—	須佐	鉄精を施す

第7表 SK08 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考
			口径	底径	器高			
SK08-1	陶器	中碗	10.2	4.5	8.65	17c末~18c	肥前	染付 (外)花唐草文
SK08-2	磁器	猪口	7.2	3.4	5.35	17c末	—	染付 (外)雨降り文
SK08-3	磁器	中碗	10.5	4	6.3	17c末~18c初	波佐見	くらわんか碗 染付 (外)草花文 (底) 大明年製
SK08-4	磁器	中瓶	4	—	—	17c末~18c初		染付

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)			備考
			長	幅	厚	
SK08-5	焼瓦	丸瓦	残存 16.7	残存 9	—	2.4 裏面に「V」字の溝

第8表 I区出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	產地	備考
			口径	底径	器高			
I-1	磁器	中碗	9.2	3	6.3	-	京焼風?	
I-2	磁器	碗	-	2.5	-	-	-	
I-3	磁器	碗	-	4.4	-	-	-	染付 (外)不明
I-4	磁器	大碗	12.1	-	-	-	-	染付 (外)松文
I-5	磁器	小碗	7.6	2.6	3.75	-	-	染付 (外)草文
I-6	磁器	碗	-	4.7	-	17c末~18c	-	染付 (外)草文? (底)二重渦福
I-8	磁器	皿	-	8.6	-	明	中国	青花 (内・外)不明 火を受けている
I-9	磁器	五寸皿	14.4	9.3	3.7	18c前	-	染付 (外)唐草文 (内)草文 (見込)五弁花 (底)太明年製
I-10	磁器	皿	-	6.6	-	明末	中国	青花 (内)草文
I-11	陶器	埴木鉢	-	11.8	-	-	-	底部穴1つ
I-12	磁器	蓋	-	4.2	-	-	-	染付 (外)草文 (口縁内)四方禪文 (見込)五弁花?
I-13	陶器	碗	-	5.8	-	-	-	
I-14	陶器	土瓶蓋?	6.8	-	-	-	-	
I-15	磁器	紅焼口	4.5	1.1	1.8	-	-	外型成型
I-16	磁器	紅猪口	5	1.4	1.5	-	-	外型成型
I-17	石	不明	-	-	-	-	-	
I-18	陶器	擂鉢	31.4	-	-	-	須佐	擂目9条

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)				備考
			長	幅	厚	厚	
I-19	赤瓦	軒平瓦	残存4	残存4.2	-	4.5	中心飾三葉か 頸部幅10.4cm 瓦当幅4.4cm
I-20	焼瓦	軒平瓦	残存6.2	残存9.1	-	1.4	中心飾横 烏と唐草 下に一転、上に二転? 頸部幅2.4cm 瓦当幅1.4cm
I-21	焼瓦	軒平瓦	残存3.1	残存12.2	-	1.8	中心飾横 烏と唐草上に四転 頸部幅2.5cm 瓦当幅4.6cm
I-22	焼瓦	軒丸瓦	残存3.1	残存13.4	復元16.6	-	周縁径2.6cm 瓦当厚3cm
I-23	焼瓦	丸瓦	残存18.2	残存14.2	-	2.9	

第9表 II区出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考
			口径	底径	器高			
II-1	磁器	中碗	10	4.5	5.6	17c末~18c	-	染付 (外)梅文、丸文
II-2	磁器	猪口	-	4.5	-	17c末~	-	染付 (外)不明 (見込)五弁花 (底)太明〇化年〇
II-3	磁器	中碗	10.6	4.4	6.6	18c初	-	染付 こんなやく印判 (外)草文 (底)太明年製
II-4	磁器	小杯	7.8	3	5.1	18c前	-	
II-5	磁器	中碗	10.2	3.3	5.5	18c中~後	-	染付 (外)松竹梅文 (底)太明成化年製
II-6	磁器	中碗	10	3.6	5.25	18c中~	-	染付 (外)草花文 (底)太明年製か?
II-7	陶器	小皿	13	5.6	3.1	18c	須佐	
II-8	陶器	小皿	12.4	5.9	3.4	18c	-	目跡4ヶ所か
II-9	陶器	小杯	5	2.3	2.6	-	-	口縫
II-10	陶器	小皿	13.2	5.9	3.95	18c?	地元	目跡4ヶ所 火を受けている
II-11	陶器	中鉢?	20.4	-	-	18c	須佐	
II-12	磁器	中皿	19.2	9.4	3.3	18c後~ 19c	-	染付 口縫? (内)草文
II-13	陶器	鉢?	10.2	-	-	19c初	地元	
II-14	陶器	行平?	9.9	4.4	-	19c初	地元	トビガンナ
II-15	磁器	小杯	6.6	3.5	5	-	-	
II-16	陶器	碗?	-	6.8	-	-	須佐	基筒底 火を受けている
II-17	磁器	皿	-	9	-	-	-	染付 (内)不明 蛇ノ目凹型高台
II-18	陶器	段重	10.8	10.4	4.2	-	-	染付 (外)草花文
II-19	陶器	五寸皿	17.7	7.4	5.1	-	-	(見込)墨書きらしきものあり
II-20	磁器	皿	12.2	-	-	-	-	染付 口縫 (外)唐草文 (内)不明
II-21	陶器	土瓶蓋	4.8	-	-	-	-	染付 波と船
II-22	磁器	紅猪口	5	-	-	-	-	外型成型
II-23	陶器	小鉢	14.4	6.6	7.9	-	須佐?	墨書きあり 目跡(針跡?)4ヶ所
II-24	陶器	桶木鉢	17.5	-	-	-	-	
II-25	陶器	片口	21.8	9.6	12.3	-	須佐	目跡5ヶ所

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)				備考
			長	幅	径	厚	
II-26	焼瓦	軒丸瓦	残存 2.7	残存 7.7	復元 17.6	瓦当 2.1	周縁径2cm 18果の宝珠? 左巻の三巴文
II-27	焼瓦	軒丸瓦	残存 3.2	残存 13	復元 16.4	瓦厚 2.3	周縁径2.4cm
II-28	焼瓦	軒平瓦	残存 9.5	残存 9.4	-	1.6	額部幅2.2cm 瓦当幅4.2cm
II-29	焼瓦	軒平瓦	残存 4.1	残存 17.4	-	1.8	中心飾不明 唐草二反転
II-30	焼瓦	平瓦	残存 5.3	残存 4.4	-	2.1	側面にスタンプ
II-31	焼瓦	平瓦	残存 14.6	残存 13.4	-	2.2	側面にスタンプ
II-32	焼瓦	平瓦	残存 8	残存 6	-	2	側面にスタンプ
II-33	焼瓦	平瓦	残存 13.4	残存 17.2	-	3	側面にスタンプ
II-34	焼瓦	平瓦	残存 14.6	残存 12.5	-	2.2	

第10表 III区出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			年代	産地	備考
			口径	底径	器高			
III-1	磁器	中碗	10.2	4.5	6.15			
III-2	磁器	中碗	10	4.1	5.8			染付 (外)草と垣根? (底)○○年製か○○○
III-3	陶器	皿?	—	4.5	—	17c前	唐津	絵唐津 胎土目
III-4	磁器	中碗	9.9	—	—	18c~		染付 (外)草花文
III-5	磁器	中碗	9.6	3.8	5	18c末		染付 (外)梅文
III-6	陶器	灯明皿台	7.8	2.6	2.4	18c後		火を受けている
III-7	磁器	中碗	11.6	5.7	6.8	幕末19c		染付 (外)草花文
III-8	磁器	中碗	9.4	—	—			こんにゃく印判? (外)松
III-9	磁器	小皿	10.3	5.8	2.9	18c		染付 (外)唐草文(内)草文
III-10	磁器	小皿	13.6	8.8	2.4			染付 (外)唐草文 (内)花唐草文
III-11	磁器	小皿	11	4.8	2.8	明治以降		型紙刷り? (内)草花文
III-12	磁器	皿?	—	7.8	—			染付 (外)唐草文 (内)垣根? (見込)五弁花(底)二重溝幅?
III-13	磁器	皿?	—	9.1	—	17c明末 ~清	中国	青花
III-14	磁器	皿?	9.2	—	—	17c末~ 18c初	肥前	染付 (外)唐草文 (内)花唐草文
III-15	磁器	猪口	9.4	—	—			染付 (外)両降文
III-16	磁器	小杯	7.4	—	—			こんにゃく印判 (外)紅葉
III-17	磁器	小杯	6.8	—	—			こんにゃく印判
III-18	磁器	瓶	—	—	—	肥前	染付 文様不明	
III-19	陶器	碗	—	4	—			鉢輪? 高台無縫 目跡4ヶ所
III-20	陶器	香炉?	—	6.2	—	18c	肥前	高台無縫
III-21	磁器	香炉	10.8	—	—		肥前	外面青磁
III-22	陶器	碗	—	—	—	18c?	須佐	基筒底
III-23	陶器	小壺	3.7	3.8	2.7		瀬戸	
III-24	陶器	擂鉢	34	—	—		須佐	擂目8条
III-25	陶器	擂鉢	29.4	—	—		須佐	擂目11条
III-26	陶器	擂鉢	—	10.2	—		須佐	擂目8条
III-27	陶器	擂鉢	—	12	—		須佐	麻耗が激しく擂目不明
III-28	陶器	片口	23	—	—	18c	須佐?	高台無縫

遺物番号	種別	器種	石・瓦 法量(cm)				備考
			長	幅	怪	厚	
III-29	焼瓦	軒丸瓦	残存 2.4	残存 10.3	—	瓦当2.4	表面に光沢あり 三巴文左巻 2個の宝珠あるが認数不明
III-30	焼瓦	軒丸瓦	残存 4.3	残存9	復元 16	瓦当2.9	周縁径2.8cm
III-31	焼瓦	軒丸瓦	残存 10.8	15	15	2.2	瓦当中央に八花弁のスタンプ
III-32	焼瓦	軒丸瓦	残存 4.7	残存 18cm	復元 20.4	瓦当2.8	焼瓦の焼き損ないと思われる周縁径3cm
III-33	焼瓦	軒丸瓦	残存 7.3	7.4	復元 15.8	瓦当2.3	周縁径2.4cm
III-34	焼瓦	軒平瓦	残存 13.3	残存 11.4	—	2	額部幅2.2cm 瓦当幅5.3cm
III-35	焼瓦	軒平瓦	残存 8	残存 18.7	—	1.9	中心飾不明 唐草二反転 額部幅3cm 瓦当幅残存3.3cm
III-37	焼瓦	平瓦	残存 4.1	7.7	—	2.5	側面にスタンプ
III-38	焼瓦	平瓦	残存 9.1	残存 8.3	—	2.2	側面にスタンプ
III-39	焼瓦	平瓦	残存 11.2	7.6	—	2.1	側面スタンプあり
III-40	焼瓦	平瓦	残存 21.7	15.4	—	2.2	側面にスタンプ

第11表 その他の時代の出土遺物観察表

遺物番号	調査区	種別	器種	法量(cm)			備考
				口径	底径	器高	
1		土器	壺	13.8	—	—	胎土荒い 焼成良
2		弥生土器		—	—	—	胎土3mm程度の石英、長石の粒子多く含む 焼成良好 口縁部には2条の線が入る
3		弥生土器	壺?	—	—	—	胎土3mm程度の石英多く含む
4		土器	壺	14.4	—	—	胎土1.5mmの石を含む 烧成良好 外面部口縁部ハケ目のちナデ 口縁近くの体部ハケ目 体部ナデ 内面ナデ
5		土器	不明	34.2	—	—	胎土2mmの石を微量に含む 烧成良好 全体にナデ 口縁の一部ケツリのちナデ
6		土器	不明	9.2	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好
7		土器	不明	—	—	—	胎土密 烧成良好 外面刷毛目?
8		土器	露台	—	—	—	胎土密 烧成良好
9		弥生土器	壺	—	—	—	胎土石英、長石の微量含む 烧成良好
10		土器	不明	—	—	—	胎土2mmの石含む 烧成良好 内外面ナデ
11		土器	壺	—	—	—	胎土密 烧成良好 外面ナデ一部スス付着 内部口縁部 ナデ 体部ケツリ
12		土器	壺	15	—	—	胎土密 烧成良好 口縁の一部にスス?付着
13		土師器	高杯	—	—	—	胎土最大4mm程度の石英、長石含む 烧成良好
14		土器	壺?	11	—	—	胎土2mmの石を微量に含む 烧成良好
15		土器	壺	10.2	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好 外面ナデ
16		土器	壺?	18.2	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好
17		土器	壺?	—	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好
18		土器	壺?	—	—	—	胎土密 烧成良 外面に装飾あり
19		土器	壺	28.6	—	—	胎土4mmの石を含む 烧成良好 外面○壺
20		土器	壺	15.2	—	—	胎土3mmの石含む 烧成良好 外面ナデスス付着 口縁内ナデ 体部内ケツリ
21		土器	壺	17.2	—	—	胎土密 烧成良
22		土師器	壺?	—	—	—	胎土やや荒い 烧成良好
23		土器	不明	—	—	—	胎土やや密 烧成良好
24		土器	碗	9.2	—	—	胎土密 烧成良
25		土器	ミニチュア	3.3	1	2.8	胎土密 烧成良好
26		土器	ミニチュア	2.8	1	2	胎土石英、長石含む 烧成良好
27		磁器		—	—	—	白磁
28		磁器		—	—	—	白磁
29		磁器		—	—	—	白磁
30		磁器		—	—	—	白磁 内側に縦刻あり
31		磁器		—	—	—	白磁
32		磁器		—	—	—	白磁
33		磁器	皿?	—	—	—	白磁
34		磁器		—	—	—	白磁
35		磁器		—	5.2	—	白磁
36		磁器		—	16.6	—	白磁
37		磁器		—	16.2	—	白磁
38		磁器	皿	—	7.8	—	青磁
39		磁器	皿	—	9.6	—	青磁 外面にわずかに蓮弁のような凹凸あり
40		磁器	皿	—	10	—	青磁
41		磁器		—	15.2	—	線刻あり
42		磁器	皿?	—	—	—	青磁 蓮弁?
43		磁器	皿?	—	—	—	青磁
45		磁器	碗	—	5.8	—	青磁?
46		土師器	皿?	15	6.4	4.9	胎土密 烧成良好 底部系切痕
47		土師器	皿	14	7.6	3.4	胎土密 烧成良好 底部系切痕 内部に変色
48		土師器	皿?	14	6.4	3.8	胎土長石の微粒含む、 烧成良好 底部系切痕
49		土師器	皿	13.8	7.2	3.3	胎土密 烧成良好 内外面ロクロナデ 底部系切痕
50		土師器	皿	10	6.4	2.15	胎土密 烧成良好 底部系切痕 内・外面共半分にスス付着
51		土師器	皿	9.5	5.6	2.1	胎土密 烧成良好 灯明痕 全面にスス付着 底部系切痕
52		土師器	皿	9.6	5.8	2.3	胎土密 烧成良好 底部系切痕
53		土師器	皿	9	5.5	2.1	胎土密 烧成良好 底部系切痕
54		土師器	皿	9.6	6.2	2.3	胎土密 烧成良好 底部系切痕
55		土師器	皿	7.4	3	1.4	胎土密 烧成良好 底部系切痕
56		土師器	皿	8.5	4.9	1.9	胎土密 烧成良好 底部系切痕
57		土師器	皿	9.4	5.5	2	胎土長石の微粒含む 烧成良好 底部系切痕
58		土師器	皿	9.4	6	2	胎土密 烧成良好 底部系切痕
59		土師器	皿	9.6	5.7	2.15	胎土2mmの石を含む 烧成良好 底部系切痕 灯明痕多數

## 第4章　まとめ

今回調査を実施した地点は、津和野城下町においてあまり調査が実施されていない武家屋敷地区であった。しかし、開発事業に伴う調査であったため、調査日数や調査範囲が限られたものであり、屋敷の全体を把握することは非常に困難であったことを冒頭に述べた上で、その成果を簡略ではあるが以下のようにまとめとしたい。

まず調査地点であるが、絵図等で確認すると津和野城下町遺跡の武家屋敷地内であり、調査区南側1/3は空き地であったと思われた。元禄絵図によると北側2/3部分は馬廻の布施家（100石）の屋敷であったと想定される。また、南側は「新広小路」と記されており集合所等で利用した場所であったと考えられた。そして調査地点は、屋敷の裏側にあたる部分であり、しかも土手や外堀との間の空間部分であったと想定され、その結果建物等の遺構は皆無であり、土坑状の遺構が多く検出されることとなった。これらは当時のゴミ捨て場的なものであると考えられた。中級武士の屋敷構え全体を把握することはできなかったが、生活用品の一部である食器類などの陶磁器がまとまって出土したことは、今後の城下町遺跡を調査する上で貴重なものとなり、今後の城下町遺跡を発掘調査するひとつの目安となる資料であるといえる。さらに、これらの土坑は北側2/3の地点から検出されたものであり、南側からは確認することはできなかった。この結果は、調査区南側が「新広小路」部分に当たることを意味しているのではないかと考えた。

また、出土遺物から言える点として、江戸時代以前の遺物として、弥生時代の土器、次いで古墳時代の土師質土器、次いで鎌倉時代の陶磁器が確認された。しかし、これらの遺物は遺構に伴うものではなく、出土点数も少量なためそれぞれの時代を検証することは困難であったが、弥生時代から鎌倉時代までの期間において調査区周辺に人々が住んでいた可能性が高い結果が得られた。また、室町時代（吉見氏）の遺物がほとんど確認されなかつた。このことは、今までの城下町遺跡内の調査からも同じ結果がでていることで、吉見氏の時代の中心部は城の西側にあたる喜時雨地区であったと言われており、その時代には田や畠であった可能性が高いと考えられていたが、そのことを立証できる資料の一つになったのではないかと考えられる。

- 《参考文献》 沖本常吉編『津和野町史』第一巻 津和野町史刊行会 1970  
沖本 博著『吉見氏とその時代』 津和野歴史シリーズ刊行会 1997  
『津和野城跡基本構想策定報告書』 津和野町教育委員会 2003  
『陶晴賢本陣跡』 津和野町教育委員会 2007

- 《引用》 第5図 津和野城下町絵図 元禄期  
第6図 津和野城下町絵図 栗本格斎筆 大正期  
津和野百景図より 六十八 堀内御番所の景



1 調査地点鳥瞰



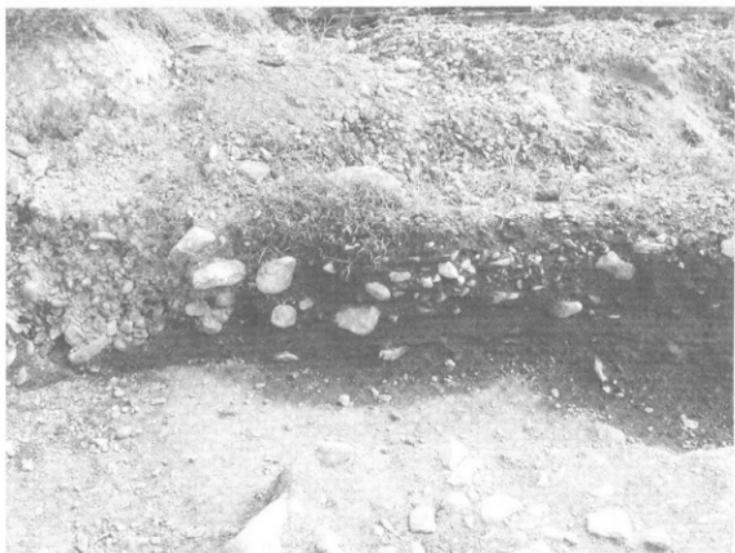
1 調査区近景（調査前）



2 調査区近景（表土掘削後）



1. 調査区 I 南壁（西半部）



2. 調査区 I 南壁（東半部）



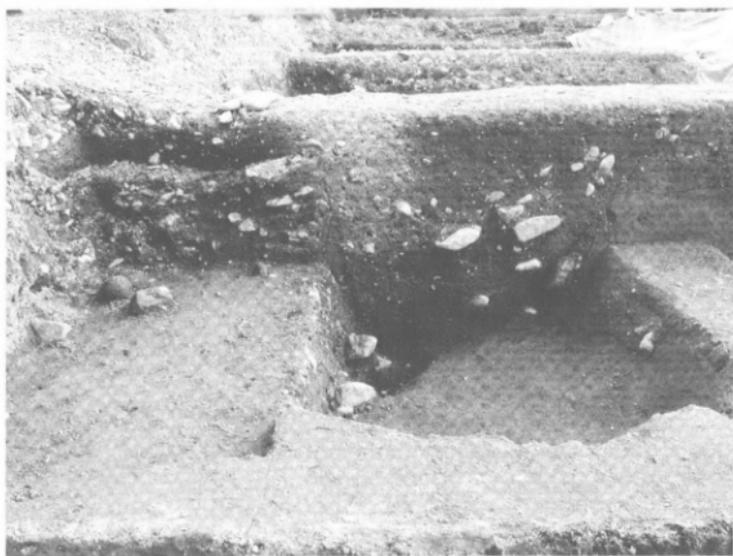
1. 調査区II南壁（西半部）



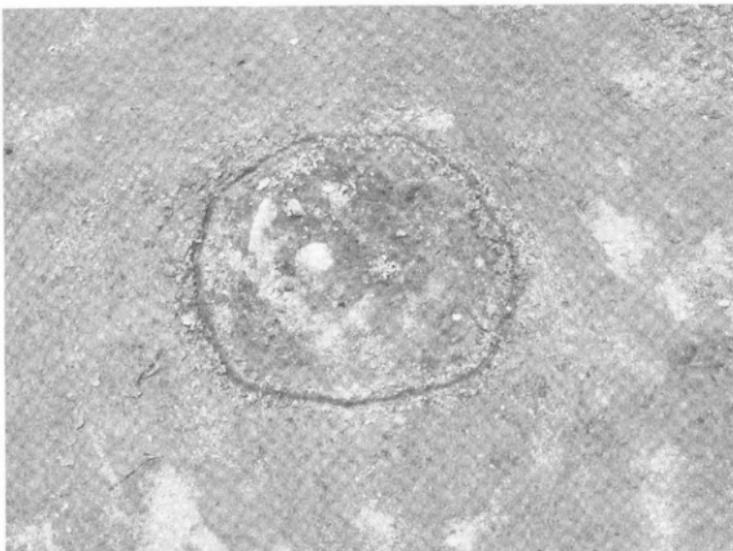
2. 調査区II南壁（東半部）



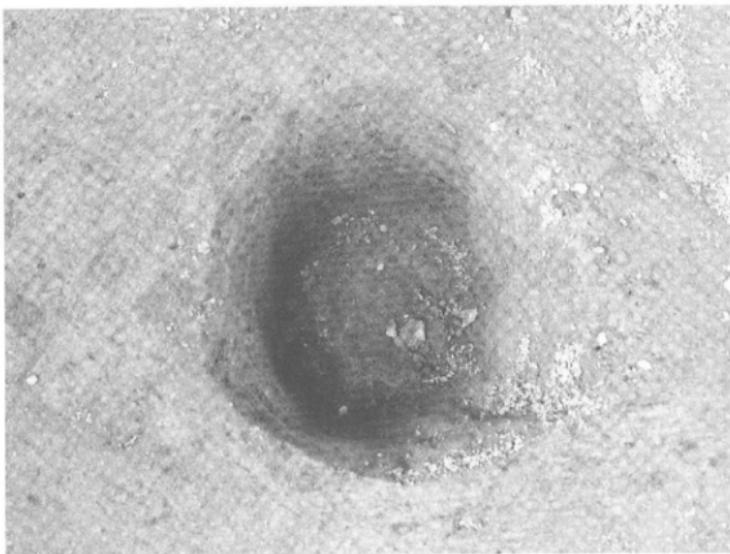
1. 調査区III南壁（西半部）



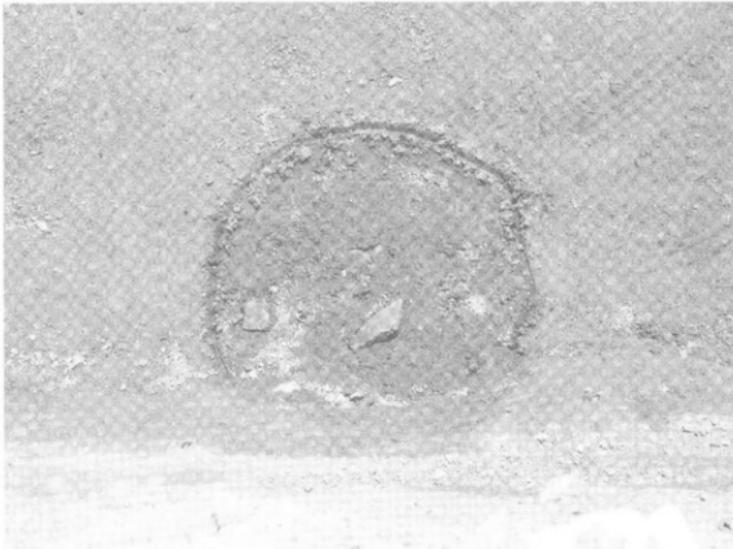
2. 調査区III南壁（東半部）



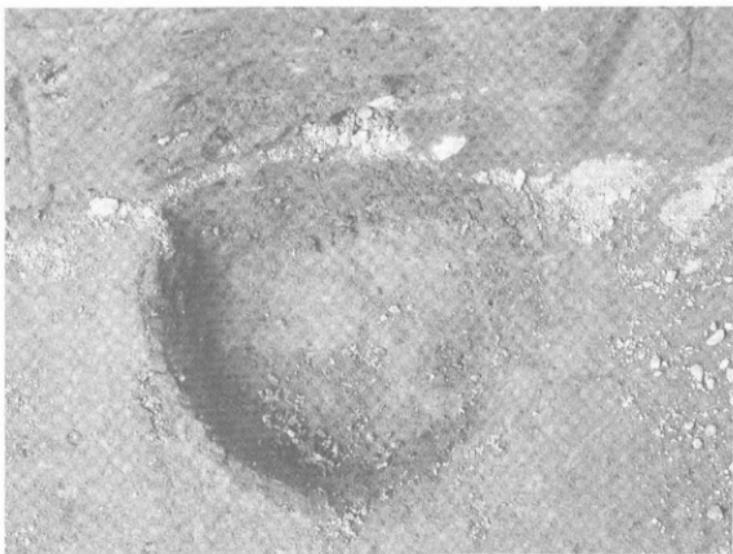
1. SP01 検出状況



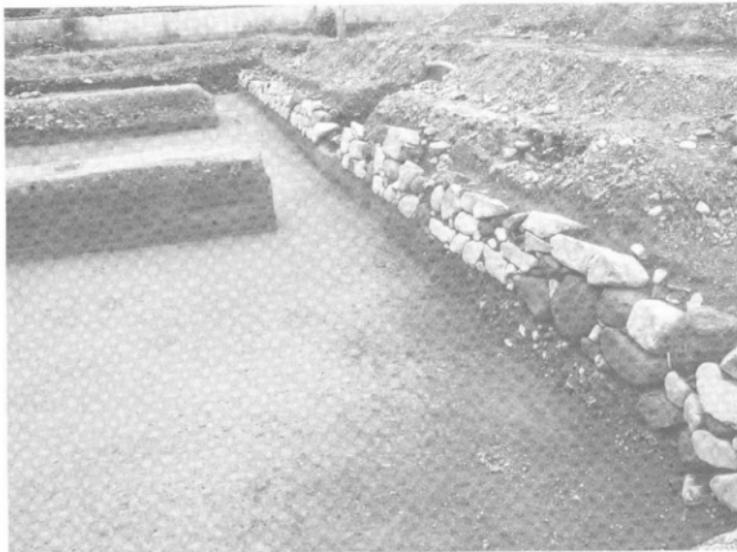
2. SP01 完掘状況



1. SP02 検出状況



2. SP02 完掘状況



1. SX01 検出状況（北から）



2. SX01 検出状況（南から）



1. SX02 検出状況（石垣上から）



2. SX02 検出状況（東から）



1. SD01 検出状況（東から）



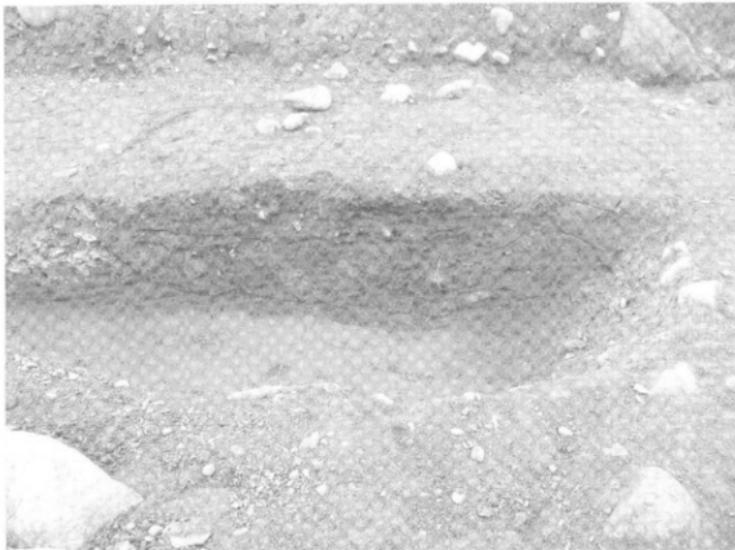
2. SD01 断面層



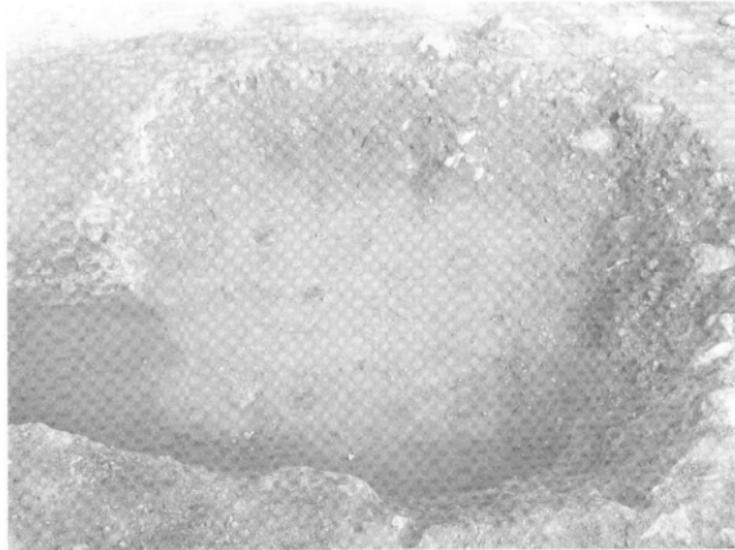
1. SK01 検出状況



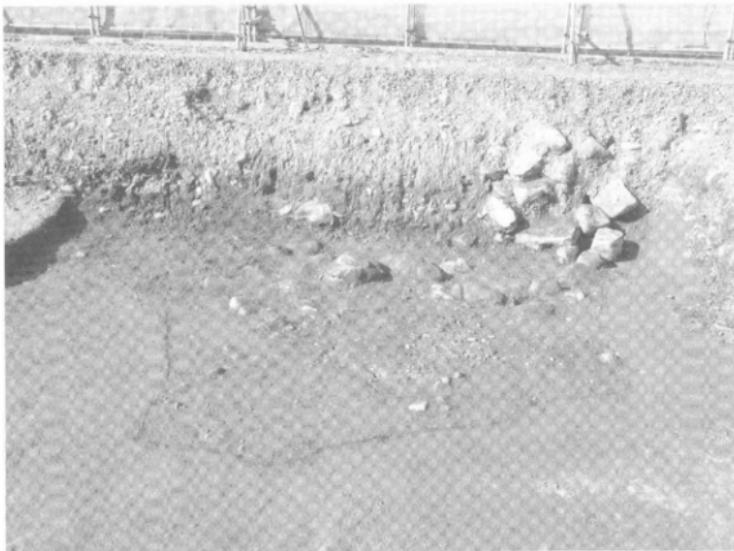
2. SK01 完掘状況



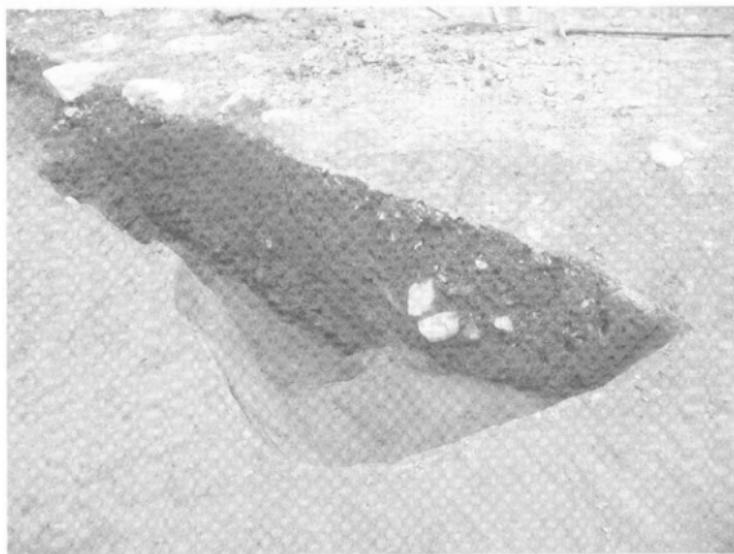
1. SK03 半掘状況



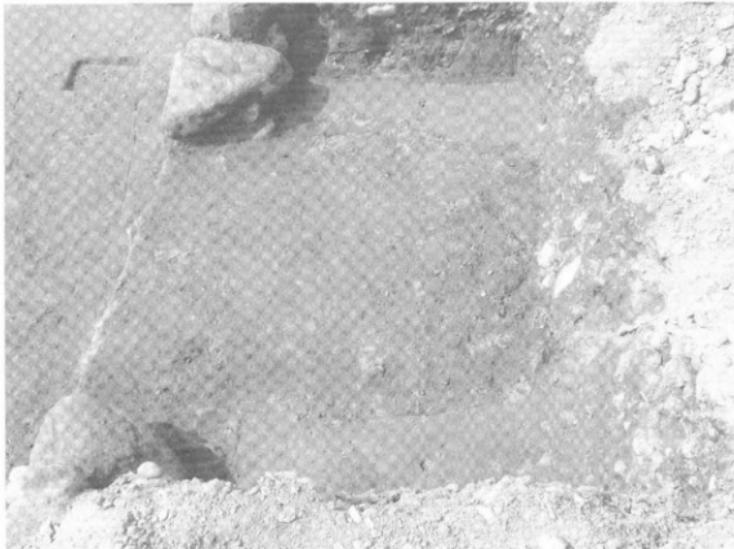
2. SK03 完掘状況



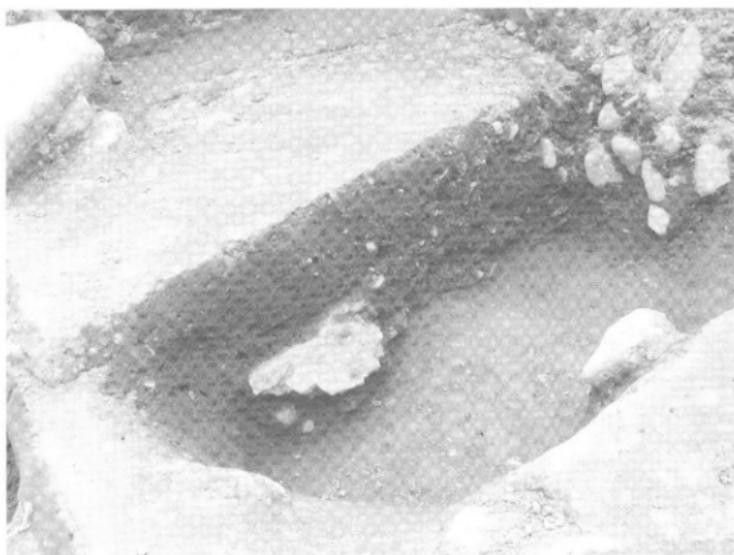
1. SK04・08 検出状況



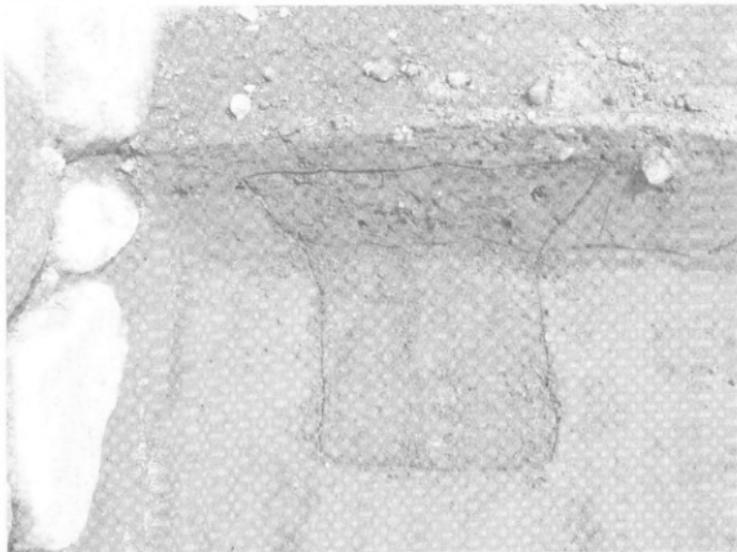
2. SK04・08 半掘状況



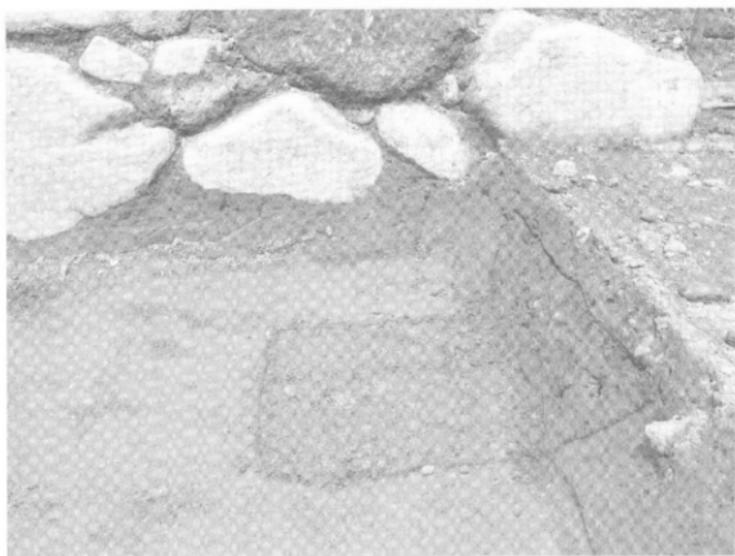
1. SK05 検出状況



2. SK05 半掘状況



1. SK06 検出状況（南から）



2. SK06 検出状況（東から）